令和７年　第８回

戸田市教育委員会定例会

令和７年８月２１日

戸田市教育委員会

第８回教育委員会（定例会）次第

１　開会

２　前回の会議録の承認

３　教育委員提案　　別添　資料№.１のとおり

４　報告事項　　別添　資料№.２のとおり

５　その他

（１）次回の教育委員会の日程（案）

令和７年９月１８日（木）午前９時３０分～

（２）その他

６　閉　　会

９月教育委員会関係【会議】日程表

日	曜日	会議名		内　　容	時　　間	場　所	主管課
1	月						
2	火						
3	水						
4	木						
5	金		戸田市英語弁論暗唱大会	市英語研究部主催による中学校英語弁論暗唱大会	13:00～17:00	教育センター	教育政策室
6	土						
7	日						
8	月						
9	火						
10	水						
11	木						
12	金						
13	土		英検対策講座	希望者による英検3級受検対策講座	9:00～12:00	教育センター	教育政策室
14	日						
15	月						
16	火						
17	水		蕨班英語弁論暗唱大会	蕨班英語研究部主催による中学校英語弁論暗唱大会	13:00～16:30	教育センター	教育政策室
18	木						
19	金						
20	土						
21	日						
22	月						
23	火						
24	水						
25	木						
26	金		学警連第3回役員会	学校と警察による連携のための会議	15:30～	オンライン	教育政策室
27	土						
28	日						
29	月						
30	火		戸田市学校情報マネジメント研修会	情報マネジメントに係る研修会	15:30～	オンライン	教育政策室

９月教育委員会関係【行事・講座等】日程表

日	曜日	会議名	内　　容	時　　間	場　所	主管課
1	月					
2	火	託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
		戸一小・戸東小　修学旅行 ～3日				
3	水	【市民大学講座】 歴史講座①	埼玉の山とその歴史について学びます	13:30～15:00	新曽公民館	生涯学習課
		戸田南小　林間学校 ～5日				
4	木	託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
		芦原小　修学旅行 ～5日				
5	金	ととけっこの部屋	親子で一緒にわらべうたで遊び、絵本の読み聞かせを楽しむ	11:00～11:30	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
		赤ちゃんおはなし会	絵本の読み聞かせ、手遊び、童謡など。	10:30～11:00	あいパル2階 和室	生涯学習課
6	土	子ども大学とだ④	青山学院大学キャンパスツアー	9:00～17:00	青山学院大学	生涯学習課
		手づくり和菓子講座②	家庭でもできる夏の和菓子のつくり方を学び、涼しさを体感します	10:00～12:00	新曽公民館	生涯学習課
		スマホ・パソコン質問コーナー	パソコン・スマートフォン・タブレット等の基本操作などの各種IT相談。ミニ講座「LINEを使いこなそう」も実施。	9:00～12:00	美笹公民館	生涯学習課
		おはなし玉手箱	絵本の読み聞かせ、紙芝居、おはなしなど	11:00～11:30	中央図書館 読み聞かせコーナー	生涯学習課
		美笹のおはなし会	絵本の読み聞かせ、手遊びなど	10:00～10:30	美笹公民館 親子ふれあい広場	生涯学習課
7	日	【市民大学講座】防災士と学ぶ防災講座～被災地の近況と災害対応シュミレーション～	被災地を視察した方からお話を聞き、カードゲームで災害対応を体験する	13:30～15:30	美笹公民館	生涯学習課
		子ども映画会	「おじゃる丸　満月ロード危機一髪」(50分)	10:30～11:30	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
		企画展展示解説	企画展「戸田と戦争」の展示解説	14:00～14:40	郷土博物館	生涯学習課
8	月					
9	火	【市民大学講座】埼玉大学・戸田市連携講座	人は何故、化粧をするのか？ ―化粧品を「化学」する―	14:00～15:30	市役所5階 大会議室	生涯学習課
		新曽中　社会体験チャレンジ ～11日				
		新人水泳県大会 ～10日				
10	水	【市民大学講座】 歴史講座②	埼玉の山とその歴史について学びます	13:30～15:00	新曽公民館	生涯学習課
		新曽小・喜沢小・笹目東小 林間学校　～12日				
11	木	英語でポップスを歌おう	オールディーズのヒットソングを楽しく歌います	14:00～15:30	下戸田公民館	生涯学習課
		名作映画上映会	名作映画「ローマの休日」を新曽公民館ホールの大画面で鑑賞する	13:30～16:00	新曽公民館	生涯学習課
12	金	赤ちゃんおはなし会	絵本の読み聞かせ、手遊び、童謡など。	10:30～11:00	あいパル2階 和室	生涯学習課
		【市民大学講座】埼玉大学・戸田市連携講座	ジャグリングパターンの数理	14:00～15:30	市役所5階 大会議室	生涯学習課
13	土	スマホ・パソコン質問コーナー	パソコン・スマートフォン・タブレット等の基本操作などの各種IT相談。ミニ講座「LINEを使いこなそう」も実施。	13:00～16:00	下戸田公民館	生涯学習課
14	日					
15	月					
16	火	託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課

日	曜日		会議名	内　　容	時　　間	場　　所	主管課
17	水		【市民大学講座】埼玉大学・戸田市連携講座	韓国の文化人と城北洞	14:00～15:30	市役所5階 大会議室	生涯学習課
			【市民大学講座】 歴史講座③	埼玉の山とその歴史について学びます	13:30～15:00	新曽公民館	生涯学習課
			戸ー小林間学校　～19日				
18	木		託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
19	金		こっこのへや	親子で楽しむ絵本の読み聞かせとわらべうた	10:30～11:00	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
			赤ちゃんおはなし会	絵本の読み聞かせ、手遊び、童謡など。	10:30～11:00	あいパル2階 和室	生涯学習課
			【市民大学講座】埼玉大学・戸田市連携講座	最近の世界経済情勢について	14:00～15:30	市役所5階 大会議室	生涯学習課
			新人陸上二市大会 ～20日				
20	土		救急入門コース講習会	胸骨圧迫とAEDの使い方を中心に救命措置の基礎を学びます	10:00～11:30	新曽公民館	生涯学習課
			おはなし玉手箱	絵本の読み聞かせ、紙芝居、おはなしなど	15:30～16:00	中央図書館 読み聞かせコーナー	生涯学習課
21	日		スマホ・パソコン質問コーナー	パソコン・スマートフォン・タブレット等の基本操作などの各種IT相談。ミニ講座「LINEを使いこなそう」も実施。	13:00～16:00	新曽公民館	生涯学習課
			かみとだおはなし会	絵本の読み聞かせ、折り紙や工作など	10:30～11:30	あいパル3階 研修室	生涯学習課
			絵本カフェ ～みんなで読書会～	本をテーマにおしゃべりを楽しむ テーマ「星新一」	14:00～15:30	あいパル2階 キッチンスタジオ	生涯学習課
			新人陸上二市大会予備日				
22	月						
23	火		託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
			図書館で学ぶ今日からはじめるかんたん腸活　～毎日をもっと心地よくわたしの新習慣～	みたけ食品による腸活に関する講座	13:30～15:00	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
			パルシアターと かみとだおはなし会	上映作品「むかしばなし」 映画と絵本の読み聞かせ	10:30～11:30	あいパル3階 研修室	生涯学習課
			大人のパルシアター	上映作品「東京物語」	13:30～15:30	あいパル3階 ホール	生涯学習課
24	水		おはなし玉手箱	絵本の読み聞かせ、紙芝居、おはなしなど	11:00～11:30	中央図書館 読み聞かせコーナー	生涯学習課
25	木		英語でポップスを歌おう	オールディーズのヒットソングを楽しく歌います	14:00～15:30	下戸田公民館	生涯学習課
			託児サービス	保護者が図書館でゆっくりと本を選んだり、学習ができるように、保育士が子どもを預かる	①9:30～10:20 ②10:30～11:20 ③11:30～12:20 のいずれか1回50分	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
			新人陸上二市大会中止会期 ～27日				
26	金		みんなでパルるんひろば	前半は絵本の読み聞かせ、手遊び、童謡など 後半は保護者同士の交流や、保健師への相談	10:30～11:30	あいパル3階 軽体育室	生涯学習課
			学校訪問（笹目東小）				
			新人水泳二市大会			戸田スポーツセンター	教育政策室
27	土		おはなしの部屋	読み聞かせ、昔話などの語り	15:30～16:00	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
28	日		託児付き子育て支援イベント「絵本で心を届けよう！」	前半はオリジナル絵本作り、後半は親子のふれあい絵本を紹介	10:30～12:00	中央図書館 視聴覚室	生涯学習課
			新人陸上二市大会中心会期 予備日				
29	月		学校訪問（美女木小）				
30	火		体育祭（新曽中）				
			絵本の読み聞かせ広場	絵本の読み聞かせ・紙芝居等	10:30～11:30	下戸田公民館	生涯学習課

資料　ＮＯ．１

教育委員提案

令和７年第８回教育委員会(定例会)

令 和 ７ 年 ８ 月 ２ １ 日 （ 木 ）

戸 田 市 役 所 ３ 階　 教 育 委 員 室

1　教育委員提案

ページ

① 学校の様々な教育活動について
（平和教育・キャリア教育・金融教育・メディアリテラシー教育）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（教育政策室）

学校の様々な教育活動について

（平和教育・キャリア教育・金融教育・メディアリテラシー教育）

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

平和教育

教育課程上の位置づけ（●学習指導要領より抜粋）

国語：小学校３年生～中学校３年生まで

・戦争を扱う教科書教材を通して、平和を願う心情に触れ、
児童生徒が戦争の悲しみや平和の大切さについて考える機会がある。

社会：小学校

●日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オイリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解する。

社会：中学校

●歴史的分野

「近代の日本と世界」として、大きく6つの内容を扱う。
①欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き　②明治維新と近代国家の形成
③議会政治の始まりと国際社会との関わり　④近代産業の発展と近代文化の形成
⑤第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現　⑥第二次世界大戦と人類への惨禍

●公民的分野

人権の尊重と日本国憲法の基本原則を学び、その理解を基に、国際社会における世界平和の実現と人類の福祉の増大のために大切なことを学ぶ

道徳：小中学校

●内容項目「生命の尊さ」「国際理解,国際親善」「公正,公平,社会主義」「相互理解,寛容」等

「国際理解,国際親善」･･･それぞれの国には独自の伝統と文化があり、自分たちの伝統と文化に対して誇りをもち、大切にしている。そのことを、我が国の伝統と文化に対する尊敬の念と併せて理解できるようにする。

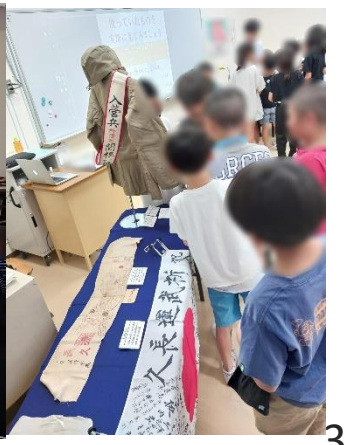
平和教育

平和宣言

被爆ピアノをお借りして大地讃頌

★ある中学校独自の取組★
- ▶総合的な学習の時間で「平和」をテーマに学習
- ▶修学旅行で広島を訪れる
  - ・平和セレモニー
  - ・碑めぐり
  - ・平和記念資料館等へ
- ▶帰校後 にふりかえり

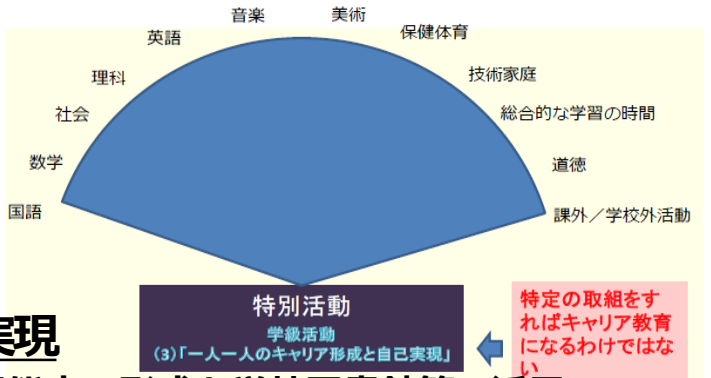
埼玉県平和資料館の職員からの話（ピースキャラバン）



★ある小学校独自の取組★
- ▶国語の時間に、戦争や戦時中の市民の生活について話を聞く
- ▶戦時中の衣類・焼夷弾に触れる機会

キャリア教育

教育課程上の位置づけ



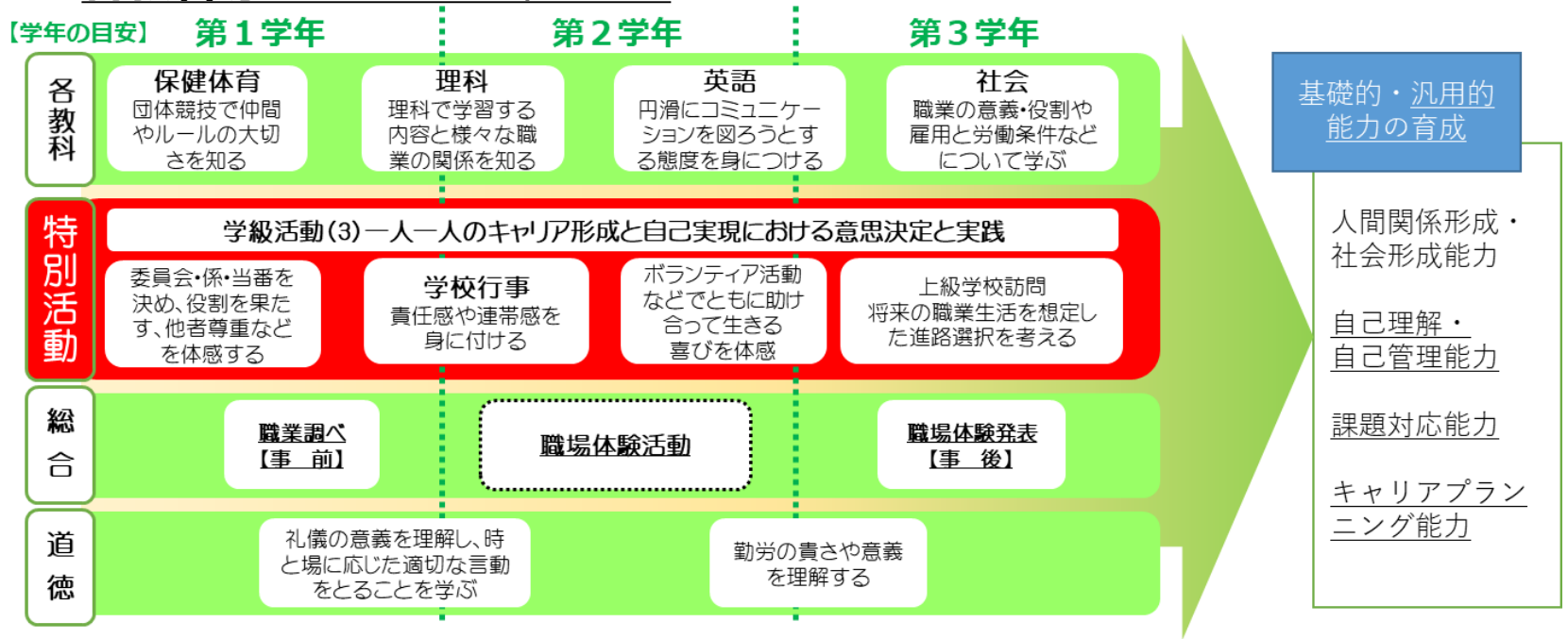
▶学習指導要領 総則

特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること

▶学級活動（３）一人一人のキャリア形成と自己実現

ア　社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
イ　社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
ウ　主体的な進路の選択と将来設計

▶各教科等　※中学校での取組イメージ



キャリア教育

実感を伴うキャリア教育の実施(全校実施)

小４ キッザニア東京での仕事体験
（小学校キャリア教育支援事業）

中２ 市施設・民間企業等での職場体験
【中学校社会体験チャレンジ事業(3Days)】

PBLによる実感を伴う学習活動

こどもの国で実施したボウリング大会の様子

キャリア教育

中学校における進路指導

高校に通う先輩から勉強の仕方や高校生活についてのお話

社会で働く先輩から仕事の話や学生時代に取り組んでほしいことについてのお話

卒業生の話を聞く会　(ようこそ先輩)

高校教諭を招いた高校紹介

学校運営協議会や学校応援団による面接練習

金融教育

教育課程上の位置づけ

小学校

家庭科　C　消費生活・環境　(1)物や金銭の使い方と買物

買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。

中学校

技術・家庭科（家庭分野）C 消費生活・環境

(1)金銭の管理と購入	(2)消費者の権利と責任	(3)消費生活・環境についての課題と実践
購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解する。	消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解する。	自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できる。

社会科（公民的分野）B　私たちと経済（1）市場の働きと経済

①身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。
②市場経済の基本的な考え方について理解すること。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解する。
③現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解する。
④勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解する。

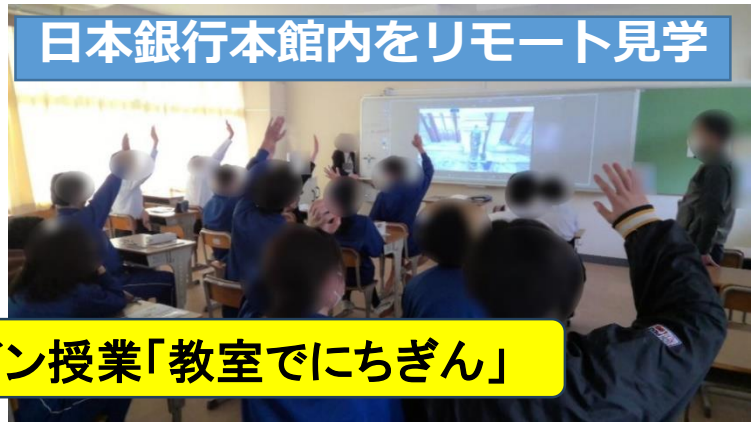
高等学校

家庭編　第４節　消費生活

(1)経済社会の動向と消費生活	（2）消費者の権利と責任	（3）消費者と行政、企業
①国民経済と消費者 ②社会の変化と消費生活 ③多様化する流通・販売方法と消費者 ④決済手段の多様化と消費者信用 ⑤生活における経済の計画と管理	①消費者問題 ②消費者の権利と関係法規 ③消費生活と契約 ④消費者教育	①消費者の自立支援と行政 ②消費者と企業

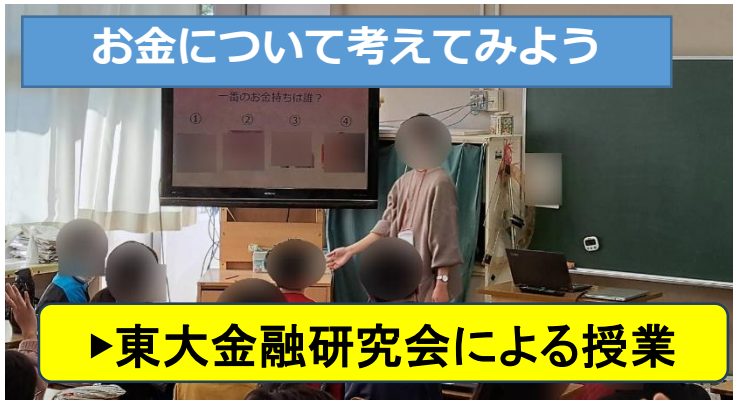
金融教育

産官学と連携した取組の例



▶日本銀行オンライン授業「教室でにちぎん」

▶F学×住友生命による授業



▶東大金融研究会による授業

その他：各学校における「きまり」

お金のトラブルが起きないよう、「学校の約束」としてお金の使い方を定めているところもある。また、長期休み前には有意義な長期休みにするために、お金の使い方に気をつけて生活するよう全校児童生徒向けに生徒指導担当教諭等が話をする。

メディアリテラシー教育

教育課程上の位置づけ

▶学習指導要領上では「情報活用能力」を各教科等を通して育成する。
また、各教科等では「情報」について教科の特性に応じて学習する。

（例）国語…情報の比較や吟味、伝え方の違い、送り手の立場からの検討等
社会…産業と情報の関わり、視聴者や読者の受け止め方の配慮等
技術…情報の収集、編集、発信の技術的な理解、情報の安全性への理解等
道徳…相手を思いやる心、マナーを守る態度等

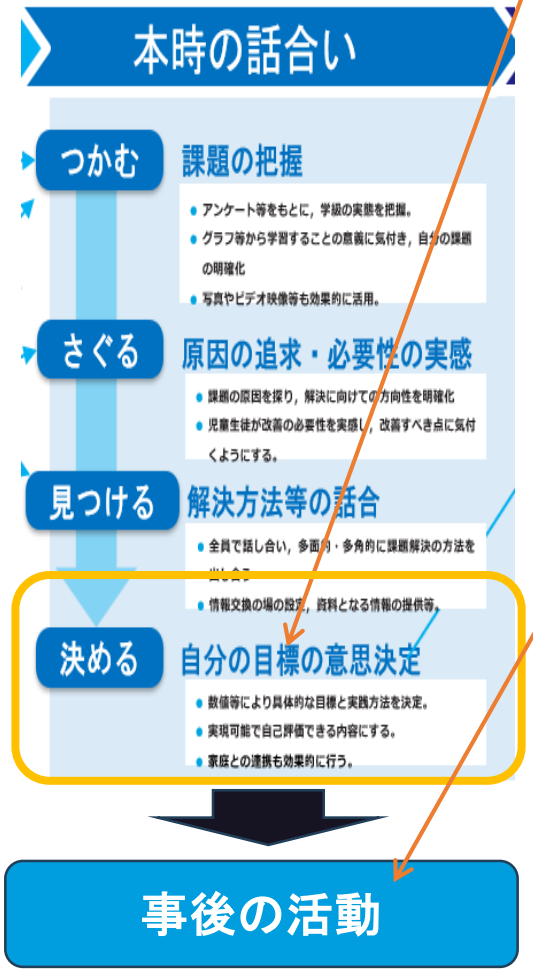
▶戸田市では、デジタル・シティズンシップ授業を全学年３時間／年 実施。
メディアリテラシーはその柱の一つとして扱う。

戸田第二小学校　デジタル・シティズンシップ教育年間指導計画

学年	実施時期 教科等 行事等	テーマ（領域）	実施時期 教科等 行事等	テーマ（領域）	実施時期 教科等 行事等	テーマ（領域）
１年生	６月 特別活動 （学校公開）	自分のパソコンをまなびにつかうってどういうこと？（１）	１０月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	１月 特別活動	テクノロジーを使うとどんな気分？（１）※
２年生	４月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	６月 特別活動 （学校公開））	自分のパソコンとじょうずにつきあうには？（２）	１月 特別活動	自分のお気に入りをどうがメディアでつたえよう（３）※
３年生	４月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	６月 特別活動 （学校公開）	あなたの個人情報をどう守る？（２）	１月 総合	情報の確かさを見極めよう（６）※
４年生	４月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	６月 特別活動 （学校公開）	ネットでのやりとり、どうすれば相手にうまく伝わる？（４）	１月 総合	声なきメッセージ（４）
５年生	４月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	６月 特別活動 （学校公開）	自分のメディアバランスを見つめよう（１）	１月 特別活動）	適切なコミュニケーションをとるには？（４）
６年生	４月 特別活動	ICTマイルールを考えよう（１）	６月 特別活動 （学校公開）	自分のメディアバランスを見つめよう（１）	１月 特別活動	ネットいじめと行動する人（５）

メディアリテラシー教育

事例　小4　学級活動 「自分のメディアバランスを見つけよう」



メディアバランスがとれた1日の計画を立てよう

	何を（使うメディアを全て書きます）	どのくらい使う？（何を何時間くらい使うか、メディアごとに記入します）	どんな時にはお休みにする？（勉強中、食事中、布団の中など何をしている時は使用をお休みするか書きます）
平日（学校にいる時間はのぞく）	・パソコン ・本 ・テレビ	・パソコン：1時間 ・本：30分 ・テレビ：1時間 合計：2時間30分	・布団の上の時。 ・お風呂に入る時。 ・外出する時。 ・家族団らんの時。
休みの日	・パソコン ・テレビ ・雑誌 ・勉強	・パソコン：1時間 ・テレビ：1時間半 ・雑誌：1時間 ・勉強：30分 合計：4時間	・布団の上の時。 ・お風呂に入る時。 ・習い事の時。 ・家族団らんの時。

▶1日の中で接するメディアとその時間について計画を立てる
▶意思決定したことを家庭での事後活動として実践する

立てた計画を実践し、家庭からのフィードバックをもらう

たくさんのメディアがあふれている中、自分で時間を決めて守ることや、やるべきことをやってから、YouTubeやゲームをしたりする等、ネットだらけにならないように気をつけたいですね。お友だちや家族とのコミュニケーション、体を動かすことや外遊び等も大切にしながら、メディアやネットとも上手く付き合っていきましょう。

保護者のコメント

▶家庭と連携した取組とすることで、保護者にもメディアとの向き合い方を考えてもらう機会としている

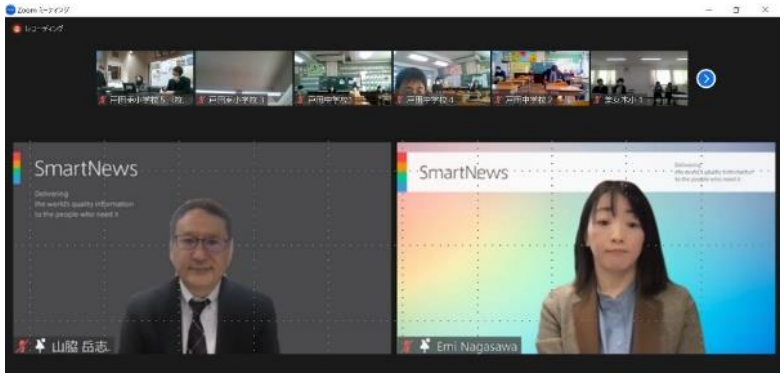
メディアリテラシー教育

スマートニュースメディア研究所と連携した取組

メディアリテラシー特別授業及び効果検証

共同研究校において実施
- メディアの特性
- フェイクニュースの見分け方
- アルゴリズムの存在とフィルターバブル、エコーチェンバー現象　などについて学ぶ

教職員向け研修会の実施
- 全教職員対象（教育フェスティバル）
- 教育センター研究員対象　メディアリテラシー作問研修会



この画像は、動画サイトに掲載されていたサムネイルです。この画像を見て、動画の内容として正しいものを選んでください。

- ○ ①このV Tuberは女性である。
- ○ ②おすすめの商品が10個紹介されている。
- ○ ③投稿者は紹介した商品を購入した。
- ○ ④どれも正しくない可能性がある。

令和４年度　戸田市教育研究集録より

課題について

求められる○○教育の増加

学習指導要領【総則】において記載のある○○教育

▶総則編において「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」として例示

・伝統や文化に関する教育・主権者に関する教育・消費者に関する教育・知的財産に関する教育
・郷土や地域に関する教育・海洋に関する教育・環境に関する教育・放射線に関する教育
・生命の尊重に関する教育・心身の健康の保持増進に関する教育・食に関する教育 ・防災を含む安全に関する教育

▶明記はないが内容として存在していると考えられるもの

・人権教育・情報教育・プログラミング教育・性教育・キャリア教育・国際理解教育

学習指導要領に記載がない・上記の一部を含む・新たに生じた○○教育

ネットリテラシー教育／情報モラル教育／著作権教育／メディアリテラシー教育／NIE教育
ユニバーサルデザイン教育／インクルーシブ教育／介護教育／ 芸術教育／統計教育／平和教育
租税教育／福祉教育／社会保障教育／動物愛護教育／起業家教育・アントレプレナーシップ教育
森林教育／河川教育／エネルギー教育／自殺防止教育／図書館教育／高齢化社会教育
いじめ防止教育／ オリンピック・パラリンピック教育／ESD（持続可能な開発のための）教育
気候変動教育／屋外教育（自然体験教育）／観光教育／がん教育／多文化共生教育／エリート教育
産業教育／ STEAM教育／緊急救命教育／グローバル教育／ボランティア教育／認知症理解教育／
LGBT（ジェンダー）教育／アンガーマネジメント教育／職業教育／コミュニケーション教育　など

○○教育の内容は、各教科等に溶け込む形で存在

課題について

▲求められる○○教育等が増加・多様化する中、カリキュラム・オーバーロードの現状であり、教師も児童生徒もその内容が消化しきれていない。

▲単発で講師を呼んで話を聞く特別授業的な扱いであることが多く深まりがないケースも多い。

▲○○教育について、明確な育成すべき資質・能力や評価方法が不明確であり、準備等にあたっては教師の負担も多い。

学習指導要領をベースに各教科等でする中、
カリキュラム・マネジメントの推進が重要となる

各学校が、学校運営協議会の意見や学校評価も踏まえながら、子供たちにどのような資質・能力を身につけさせたいかを明確にし、一貫性のある方針のもとに、産官学と連携した特色ある取組として、引き続き様々な教育活動を実施していく。

資料　ＮＯ．２

報告事項

令和７年第８回教育委員会(定例会)

令 和 ７ 年 ８ 月 ２ １ 日 （ 木 ）

戸 田 市 役 所 ３ 階　 教 育 委 員 室

1　報告事項

ページ

① 令和７年度第１回戸田市海外留学奨学生について【秘密会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（教育総務課）

② 戸田市サイエンスフェスティバルについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（教育政策室）

③ 不登校対策に係る動向について・・・６
（教育政策室）

④ 第５次戸田市教育振興計画策定に向けた論点整理について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（教育政策室）

⑤ 埼玉大学・戸田市連携講座の開催について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**５０**
（生涯学習課）

⑥ その他

戸田市サイエンスフェスティバル２０２５～子ども大学とだ～について（報告）

芦原小学校において、「戸田市サイエンスフェスティバル２０２５～子ども大学とだ～」を開催いたしましたので、次のとおり報告いたします。

１　実施日時
令和７年７月１９日（土）　１３：１５～１６：００

２　参加人数
児童生徒数……１３５人
保護者・幼児…１３８人　　合計２７３人（Ｒ６年度３３１人）

３　講座名及び参加団体　　※No.は当日の講座番号　※★は新規

№	講　座　名	団　体　名
1	五角形の動物のふしぎ	travelling museum 博物倶楽部
2	化学反応：重曹とクエン酸で 風船を膨らまそう	サーモフィッシャーサイエンティフィックジャパングループ
3	きいろいガス管のひみつ ～ガス管で万華鏡をつくろう～	東京ガス株式会社　埼玉支社
4	磁石と電池で遊ぼう！	株式会社荏原製作所
5	お部屋で緑を育てよう	グリーンガーディアンズ
6	謎解きプログラミング！	エルプレイス
7	何がでてくる？プログラミング	Code for TODA
8	ドローンを飛ばして プログラミングを学ぼう	参合同会社★
9	飛ぶタネの模型をつくろう	彩湖自然学習センター
10	わくわく　科学工作	戸田市理科教育研究部
11	ミクロの世界をのぞこう ～顕微鏡を使った観察～	戸田市理科ボランティア
12	おもしろ理科体験	ケニス株式会社 戸田市理科ボランティア

4　各講座の様子

1 「五角形の動物のふしぎ」 【travelling museum 博物倶楽部】 ◆自然の中にいる五角形の構造をもつ動物について、折り紙を使って学びました。	
2 「化学反応：重曹とクエン酸で風船を膨らまそう」 【サーモフィッシャーサイエンティフィックジャパングループ】 ◆キッチンにある化学物質（クエン酸と重曹）の化学反応を使って、二酸化炭素のガスを発生させ、二酸化炭素の発生の勢いを利用して風船を膨らませました。	
3 「きいろいガス管のひみつ ～ガス管で万華鏡をつくろう～」 【東京ガス株式会社　埼玉支社】 ◆都市ガスがどのようにして家に届けられているのかを学んだあと、ガス管を利用して万華鏡をつくりました。	
4 「磁石と電池で遊ぼう！」 【株式会社荏原製作所】 ◆電気の働きを利用して、モーターを作りました。身近なモーターの活用について学びました。	
5 「お部屋で緑を育てよう」 【グリーンガーディアンズ】 ◆無菌・無機質で観葉植物を清潔に栽培できるハイドロボールや植物の生長に必要な要素、植物の育て方について学びました。	
6 「謎解きプログラミング！」 【エルプレイス】 ◆プログラミングロボットの様々なセンサーを使って謎解きゲームに挑戦しました。	
7 「何が出てくる？プログラミング『ビスケット』で 自分だけのお宝を作っちゃおう」 【Code for TODA】 ◆「ビスケット」を使い、タブレットで絵を描いて、その絵を並べるだけの簡単な操作で、楽しくプログラミング体験をしました。	

8 「ドローンを飛ばしてプログラミングを学ぼう」 【参合同会社】 ◆ドローンの仕組みや操作の仕方を学び、プログラミングでドローンを飛ばしました。	
9 「飛ぶタネの模型をつくろう」 【彩湖自然学習センター】 ◆不思議な飛ぶタネの模型を作り、実際に飛ばしてみたり、昆虫などの生き物を観察たりしました。	
10 「わくわく 科学工作」 【戸田市理科教育研究部】 ◆洗濯のりとホウ砂、絵の具を混ぜてカラフルなスライムを作りました。	
11 「ミクロの世界をのぞこう～顕微鏡を使った観察～」 【戸田市理科ボランティア】 ◆小さな生き物の様子、普段見ることのできないミクロの世界を観察しました。	
12「おもしろ理科体験」 【ケニス株式会社･戸田市理科ボランティア】 ◆手回し発電器で電気自動車を動かしたり、フィンガーブーメランや紫外線ビーズを使ったブレスレットを作ったりしました。	

5　参加スタッフ

戸田市教育委員会　３名　戸田市理科教育研究部会　１２名
運営協力教員（ボランティア）１０名　戸田市理科支援員　１１名
計　３６名（Ｒ６年度４２名）

6　成果と課題

【成果】

・児童生徒１３５名、保護者等１３８名、計２７３名の参加があり、多くの児童生徒（保護者含む）に理科の楽しさや不思議さを伝える機会となった。
・熱中症アラートが発令されていたため、事前に受付場所を室内にするなどの準備を行った。大きな混乱や体調不良者もなく、実施することができた。
・経験豊富な運営スタッフが多かったため、事前に十分な準備をしたり、当日来場者に対して丁寧な対応をしたりすることができた。
・戸田市教育委員会が進めている「産官学との連携」をさらに進め、多方面の企業、大学関係者、NPO 等に継続して出展していただいた。また、新規のブ

ースも設け、形骸化せず行うことができた。出展講座の講師からは、「子供たちの意欲が高く、戸田の学校の日々の指導を感じることができた。」「出展した側としてもやりがいがあった。」との声が多く聞かれた。
・子供たちからは、「とても面白かった。来年も参加して、違う講座をやってみたい。」など、とても楽しんで参加している様子がうかがえた。
・整理券配布については、時間を区切って行ったため、途中から入場した子供も、講座に参加することができていた。
・昨年度、中学生の参加が少ないことが課題となっていたが、今年度は中学生の参加が１１名となり、わずかながら増加が見られた。

【課題】
・当日の気温がかなり上がり、熱中症アラートが発令されていたこと、3 連休初日などが関係したのか、参加人数が伸びなかった。来年度は、案内を前日にも送付することで、さらなる周知を行う。
・中学校の全生徒にも案内を周知しているが、中学生の参加数が少ない状況（R６年度３名、令和７年度１１名）が続いている。各校の科学クラブ等へも声かけをするとともに、中学生向けの講座について検討していきたい。
・今回、受け入れ枠の少ないワークショップに、参加希望者が集中してしまった。人気のワークショップの受け入れを増やす等の対応を検討する。

報告事項③

不登校対策支援に係る動向について

戸田型オルタナティブ・プランに関する令和６年度の状況と令和７年度の取組等

１　多様な学びの場の活用状況について

（１）ぱれっとルームについて

①令和６年度の状況

・総計８３名が活用（Ｒ６．７月時点）

②令和７年度の利用状況について

・総計５４名が活用（Ｒ７．７月時点）

※７月実施の「ぱれっとルーム児童アンケート」に回答があった人数

（２）不登校生徒支援教室「いっぽ」について

①令和６年度の状況

・２名登録（Ｒ６．７月時点）

②令和７年度について

・６名登録（Ｒ７．７月時点）

（３）シェア型オンライン教育支援センター「room-k」について

①令和６年度について

・２４名登録（Ｒ６．７月時点）　【小学校】１０名　【中学校】１４名

②令和７年度について

・１６名登録（Ｒ７．７月時点）　【小学校】９名　【中学校】７名

（４）教育支援センター「すてっぷ」

①「すてっぷ」

ア　令和６年度の登録状況について

・３１名登録（Ｒ６．７月時点）

イ　令和７年度の登録状況について

・１６名登録（Ｒ７．７月時点）

②「西すてっぷ」

※令和５年８月２５日より教育支援センター「西すてっぷ」を開設

ア　令和６年度の登録状況について

・６名登録（Ｒ６．７月時点）

イ　令和７年度の登録状況について

・６名登録（Ｒ７．７月時点）

２　令和７年度新規事業について

【事業内容】

・戸田市立各中学校に戸田型中学校校内サポートルーム「きゃんばすルーム」を設置し、利用生徒の生活支援や学習支援を行う。
・令和７年６月より委託による運用開始
・国の令和５年度教育支援体制整備事業費補助金（不登校児童生徒の学び継続事業）の採択を受け、サポートルームの設置に係る備品、消耗品の購入や、有識者（「ぱれっとラボ」外部研究員）による効果検証や指導助言を行う。

３　「ぱれっとラボ」による分析

（１）外部研究員について

令和４年度より本市の不登校の予兆発見及び早期対応に係る調査、研究、分析、支援等、不登校対策支援に関する総合的な調査研究等を行うため、有識者を「ぱれっとラボ」外部研究員として委嘱している。

【令和７年度外部研究員】

	所属・役職	氏名
１	北海道大学教育学研究院　准教授	加藤　弘通　氏
２	秋田大学教育文化学部　地域文化学科　地域社会・心理実践講座　講師	侯 玥江（ホウユエジ゛ャン）氏
３	スタンドバイ株式会社 代表取締役 千葉大学教育学部附属教員養成開発センター 特別研究員	谷山大三郎　氏
４	日本薬科大学　特任教授	馬場　久志　氏
５	獨協医科大学　特任教授	東　　宏行　氏

（２）主な分析結果

※全ての小学校のぱれっとルーム利用児童、保護者およびモデル校の教職員対象のアンケートの分析結果

①児童アンケート

【ぱれっとルームに「たくさん来たい」「たまに来たい」と回答の児童の割合】

９０％（n=９４）

②教職員アンケート

【ぱれっとルーム設置によって、利用児童について他の教職員と話す機会が増えた教職員の割合】

７７％（n=３１０）

③保護者アンケート

【ぱれっとルームの設置によって子供に変化があったと感じた保護者の割合】

９４％（n=７０）

【ぱれっとルームの設置によってストレスが減ったと回答した保護者の割合】

６７％（n=７０）

（３）令和７年度の取組について

①全小学校の「ぱれっとルーム」利用児童対象のアンケート実施および結果分析（７月・１２月実施）

②全小学校の「ぱれっとルーム」利用児童の保護者対象のアンケート実施および結果分析（１２月実施）

③全小学校の教職員対象のアンケート実施および結果分析（７月・１２月実施）

④全中学校の「きゃんばすルーム」利用生徒対象のアンケート実施および結果分析（７月・１２月実施）

⑤外部研究員による「ぱれっとルーム」「きゃんばすルーム」訪問および指導助言

⑥「ぱれっとラボ」研究員連絡協議会を年３回程度開催

４　シンポジウムの開催について

（１）令和６年度の状況

・戸田市不登校について考える会～一人ひとりを大切に～開催

【講　師】文部科学省　大臣官房総務課　法令審議室審議第四係
藤井　健人　氏

【参加者】１０４名

〈アンケート結果〉

講演：とてもよかった　＋　よかった　＝　９３．３％

シンポジウム：とてもよかった　＋　よかった　＝　９３．３％

個別相談ブース（８団体参加)：とてもよかった　＋　よかった　＝　１００％

（２）令和７年度戸田市不登校について考える会～一人ひとりを大切に～について

【開催日】令和７年１０月１１日（土）　開会：９：４５（受付９：３０）

【会　場】戸田市文化会館

【内　容】①基調講演

演題：「　未定　」

講師：新井　雅　（あらい　まさる）　氏

（跡見学園女子大学　心理学部　臨床心理学科　教授）

②シンポジウム

コーディネート：学研エル・スタッフィング（「すてっぷ」運営）

③個別相談会

フリースクールやサポート校など、学びの選択肢について相談を希望する来場者に対応できる個別相談ブースを設置予定

報告事項④

第５次戸田市教育振興計画策定に向けた論点整理について

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

資料１－１

第4次計画の取組状況について

方針１：子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現について①

第４次計画期間中の主な取組

１人１台端末の文具的活用による学びの質の向上

- コロナ禍における一斉休校や対面での交流の制限などにより、全国的にも従来の教育活動が困難になる中で、本市では国のGIGAスクール構想に先駆けて平成30年から学習用端末の導入を始め、コロナ禍でも他市より先行的に１人１台端末を実現。ICTを活用した学びの質の向上を図るため「戸田市版SAMRモデル」を策定し、端末の利用が目的ではなく文具的活用による学習者中心の学びへの転換に取り組んでいる。

社会に開かれた実践型の探究「戸田型PBL」の推進

- 正解のない未知の課題解決に取り組み、未来社会を切り拓く力を育成するPBL（Project-Based Learning）を教育活動に取り入れてきたが、さらに実践型の探究にするため、「活動の対象と目的は明確か」「解決したかどうか検証したか」などといった「戸田型PBL」の６つの要件を整理して示し、取組の加速化を図った。

電子黒板機能付きプロジェクタの全校導入等ICT環境の整備

- ICTをマストアイテムとした教育への転換が求められる中、ネットワーク環境の整備や学校全体のデジタル化を進めていくことが必要であったことから、令和５年度には、市内全校の教室の黒板を電子黒板機能付きプロジェクタ・ホワイトボードに切り替えた。１人１台端末と連動し、学習者中心の学びの促進につながっている。

方針１：子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現について②

第４次計画期間中の主な取組

学校における働き方改革の推進

- 平成28年より国の委託事業を受けて働き方改革の取組を開始し、「可視化」、「共有化」、「効率化」の３Kの視点で全ての学校の業務を洗い出し見直しを進めた。
- コロナ禍を経て当たり前だった学校行事等の精選や個に応じた教職員の支援も進め、現在では時間外在校等時間の少なさは小・中学校ともに県内トップクラスになっている。

令和の日本型学校教育を体現する教員研修の高度化

- 教員免許更新制の廃止など国全体での制度改革が進む中、令和５年に文部科学省の「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」に採択され、「市主催研修の高度化」と市内モデル校における「校内研修の高度化」に取り組んだ。
- 「子供の学びと教師の学びは相似形」と言われるように教師が教職生涯を通じて主体的に学び続けるために教員研修のアップデートが必要であることから、本市では、大学等と連携し、各教科の本質に迫る研修を市主催研修の中で設けることや、モデル校において企業やNPOが校内の研修に参画し、教師同士の協働的な学びを進めることなど、「脱・自前主義」による校内研修のアップデートに取り組んでいる。

方針2：多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残されない学びの保障について

第４次計画期間中の主な取組

国の先駆けとなる不登校対策「戸田型オルタナティブ・プラン」を展開

- コロナ禍以降全国的にも急増している不登校について、本市では、令和３年に「不登校を支援する」「不登校を科学する」「不登校を理解する」の３つのコンセプトで不登校対策に取り組む「戸田型オルタナティブ・プラン」を策定した。
- 全小学校への校内サポートルームの設置や教育支援センターの拡充、メタバース空間におけるオンライン教育支援センターの設置など、不登校児童生徒の多様な学びの場の充実を図りつつ、不登校対策の効果検証等に取り組む「ぱれっとラボ」、教育相談体制の充実、市主催の「不登校について考える会」の実施などを行っている。

特別でない特別支援教育の推進

- 特別な教育的支援を必要とする全ての児童生徒が、在籍する学校で適切な特別支援教育を受けられるよう令和４年に「戸田市特別支援教育推進計画」を策定した。
- 計画では「特別でない、特別支援教育」を方針に掲げ、学習環境の整備や効果的な実践事例の共有を進めてきた。
- また、企業等と連携し、全ての児童生徒を対象としたインクルーシブ教育の推進を目指して、PBS（ポジティブな行動支援）をはじめ、多層的な支援やRTI（Response to Intervention）モデルに基づく教育実践の研究に取り組んでいる。

方針3：地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供について

第４期計画期間中の主な取組

市民大学講座における提供方法の発展

- これまでの会場受講に加えて、令和3年度からオンデマンド受講（講座を収録し、戸田市YouTubeで申込者限定配信）を開始し、市民大学講座をハイブリッド方式で提供している。
- 特に受講対象が現役世代の講座等では、会場受講者の倍以上の方がオンデマンド受講を選択しており、ニーズは大きく、受講者も年々増加傾向にある。

市民大学講座における提供内容の発展

- 令和６年度から従来のコースや登録講座を見直し、新たに６分野＋１コースに分類した。
- 受講者アンケートの分析や社会動向に基づいたテーマ選定を行ったこと、市内各課所と合同で講座を開催したことで、幅広い年齢層の市民参加があった。

方針3：地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供について

第４次計画期間中の主な取組

コミュニティ・スクールを中心とした学校・家庭・地域の連携強化

- 平成30年度から市内全ての学校をコミュニティ・スクール化。地域との関係づくりからスタートし、現在では、各学校が抱える教育課題の具体的解決を目指した熟議を実施している。
- 特に、近年では学校における働き方改革が大きな教育課題となる中、国が示した３分類に基づいた熟議を行っている協議会もあり、地域が担う役割について検討し、具体的な取組につなげている。

部活動の地域移行を含めたスポーツ、文化芸術活動の推進

- これまでの部活動の在り方を見直し、持続可能な取組への転換が求められている中、部活動の地域移行が大きな課題である。
- 国の方向性を踏まえつつ、まずは休日の部活動の地域移行を目指して取組を進めている。なお、令和４年度から国、県の実証事業として一部部活動の休日の地域移行を進めており、現在では市内全中学校で行っている。
- 今後は、令和９年度夏から市内全ての部活動の休日の地域移行を目指し、実証事業を進めている。

方針4：個別最適な学びの実現に向けたEBPMの推進について

第４次計画期間中の主な取組

教育総合データベース・ダッシュボードの構築

- １人１台端末の導入や学校現場での教育データの利活用が進む中で、様々な教育データを集約・整理し、分析等が行えるデータ基盤を整えることが必要と判断した。
- 国の委託事業として、学校を始め教育委員会やこども福祉部局が収集しているこどものデータを教育分野を軸に収集・整理し、「教育総合データベース」を構築した。
- 令和５年12月より市内全校にダッシュボード化して運用を開始した。
- データベースの構築に当たっては、市の指針となる教育データの利活用に関するガイドラインを作成し、個人情報管理など適切な運用を担保している。

産官学との連携による共同研究の推進

- 毎年発行している「教育研究集録」において、様々な外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載している。
- 例えば、国立情報学研究所新井紀子教授等との研究では、RST（リーディングスキルテスト）と県の学力調査の結果には正の相関関係があることや、RSが高い子供ほど学力も高まるといった傾向が見えてきた。

資料１－２

（参考）
第4次計画期間中の主な取組の例

方針１

子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現について

ICTの文具化に向けた指標　戸田市版SAMRモデル

SAMRモデル（Ruben.R.Puentedura 2010）とは

ＩＣＴを授業等で活用する場合に，そのテクノロジーが授業にどのような影響を与えるのかを示す尺度。SAMRの４文字のアクロニムによりいくつかの解釈があるが、戸田市では以下のように捉える。

S（代替）ubstitution	A（増強）ugmentation	M（改革）odification	R（再定義）edefinition
アナログでできることをデジタルに変換	デジタルの特性を生かして、学習効果を増大	個別最適・協働的な学びの実現に近づく	実社会の課題解決や新たな価値の創造
➢紙でもできる活用にとどまる	➢デジタルの利用により付加価値が加わる	➢子供による学習調整と自然発生的な協働が生まれる	➢実社会の課題解決や新たな価値を創造する
デジタルの特性発揮の有無（なし）	活用経験・スキルの蓄積（あり）	教師の役割の変容	社会に開かれた活用
（例） ・デジタル教科書で本文を提示 ・PDFで課題を配布、回収 ・板書を電子黒板に記入 ・デジタルドリルの活用 ・e-BOOKで読書 ・その他、Googleアプリ等を紙と区別なく単純に利用	（例） ・全員の考えを共有して協働思考 ・ファイルの共同編集 ・文章校正など試行錯誤的活動 ・コメント機能による相互評価 ・データの即時集計、可視化 ・録画によるモニタリング ・校内外とのオンライン接続	（例） ・スタディ・ログの活用 ・AIドリルのレコメンドの活用 ・シームレスな学び ・タスク管理、相互コメント等によるプロジェクト進行 ・その他、習熟したスキル等を組み合わせた活用	（例） ・学習成果を社会にリリース ・最新のテクノロジーの積極利用 ・一つのプロジェクトをデジタルで完結 ※従来は想像できない新たな可能性が開かれる段階のため、「M」以上の取組を「R」と捉える

※　各段階の（例）は一例であり、前後の段階においても行われることがあるが、学びの質には差異があ

教具的活用（教師の指示・授業の流れ）　**文具的活用**（子供の主体的選択/活用）

教師が活用場面を決める　⇒　子供と活用場面を決める　⇔　子供が活用場面を決める（知の自転車）

情報モラル　（受動的・制限的）　デジタル・シチズンシップ

Degitization　Digitalization　Digital Transformation

戸田型PBL(プロジェクト型学習)の推進

戸田型ＰＢＬとは？

そもそもProjectって何？

正解の無い未知の課題を
実際に解決していくこと。

※プロジェクトの語源は、未知の状況（pro）に、自分を投げ入れる（ject）こと。

Project

Based Learning

課題

解決

学習

戸田型ＰＢＬ（課題解決型学習）の定義

具体的な誰かの要望や自身の願望にもとづき、何をしていくか（課題）を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現（解決）を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び（学習）

戸田型ＰＢＬ（課題解決型学習）にするための要件

単元設計の際に、下記６つの要件が考えられているかを確認すること。

下記「▲」の段階から、「◎」のように一歩進めることが戸田型PBLにおいて大切

- ☐ 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である
  - ▲水害を調べて発表しよう ⇒ ◎必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！
- ☐ 「あなたなら何をするか？」という実行方法を問う課題である
  - ▲食品ロスとは何かを考えよう ⇒ ◎食品ロス防止のために私達に何ができるだろうか？
- ☐ 解決（目標の達成、理想の実現）をしたかの基準が明確である
  - ▲漠然とゴミを減らせたらゴール ⇒ ◎1人1日100gの家庭ゴミを減らせたらゴール
- ☐ 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある
  - ▲最終結果をまとめて発表した ⇒ ◎未解決理由を探り、改善策を考え（実行し）た
- ☐ 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある
  - ▲チェックシートに○×を付ける ⇒ ◎何を学び、どう活かすか等を子供自身が言語化する
- ☐ 下図のようなプロセスを繰り返し、学びを段階的に発展させている
  - ▲プロセスを繰り返している ⇒ ◎発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照

戸田型PBL発展のイメージ

生活科

低学年における PBL は生活科そのものである。低学年においては、課題＝思いや願いと捉え、思いや願いの実現に向けて活動していくことが大切である。

自分

他者

学校
地域

社会
世界

探究していく
対象が広がる

実生活・実社会で
生きて働く力
（未来を切り拓く力）

中学年以降
の学習へ

課題
の設定

情報の
収集

整理・
分析

まとめ・
表現

検証・
振り返り

振り返り

思いや
願い

体　験

感じる
考える

表　現

総合的な学習の時間

中学年以降の総合的な学習の時間においては、
単元全体を探究的な学習のプロセスを基に構成し、
自らの考えや課題を新たに更新することができるよう
①課題の設定　②情報の収集
③整理・分析　④まとめ・表現
の探究の過程を「⑤検証・振り返り」まで含めて繰り返し、学びを段階的に発展させることが大切である。

発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方２』を参照

STEAM教育の基盤づくりの実践

▸Society5.0など社会とテクノロジーの関係がますます密接になる時代に必要な教育の実現

「AIでは代替できない能力」「AIを活用する能力」の育成

戸田型PBL
(Project Based Learning)

＋

創造性
文理融合
テクノロジー活用

教科等横断による課題発見・解決的な学び

STEAM教育の視点を取り入れた
PBLへ発展

intel 「Skills for Innovation」

データの活用、プログラミング、デジタルコンテンツの制作、シミュレーション、
モデリング、AI・機械学習など先端テクノロジーを活用するためのスキル群の育成

▸インテル株式会社との連携

STEAM教育研究

STEAM Labの活用によるSTEAM教育の事例創出（先端テクノロジー活用）

＋

市内教員研修

◇市教委主催研修でIntel Teach Program
に基づくPBL研修の実施

有識者による指導・助言・研修

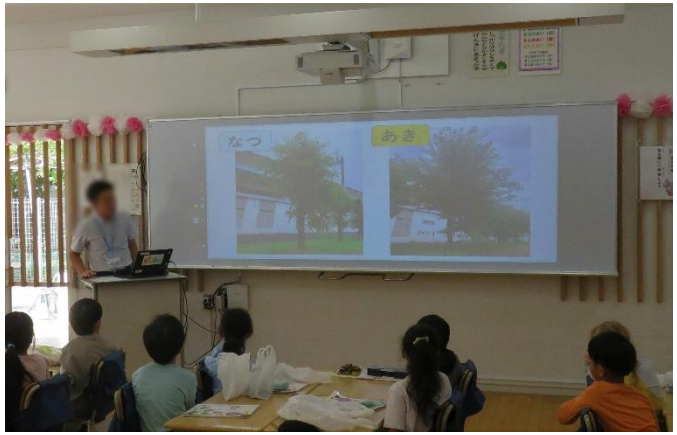
中村学園大学 教育学部 山本朋弘 教授
Intel Teach Program研修講師

Lab環境構築支援及びパートナー協力

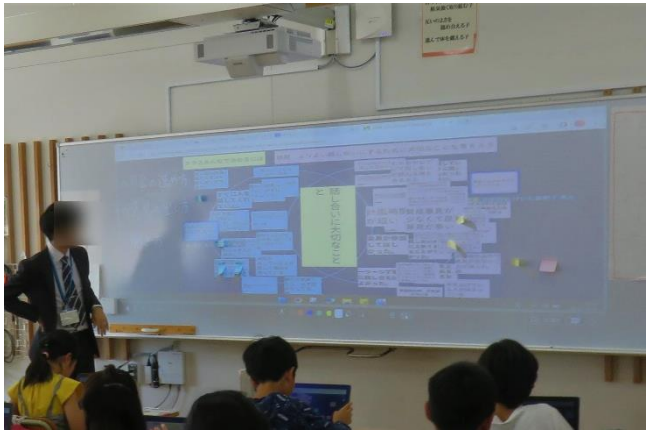
intel Adobe RICOH リコージャパン株式会社 Avalon Technologies, Inc.

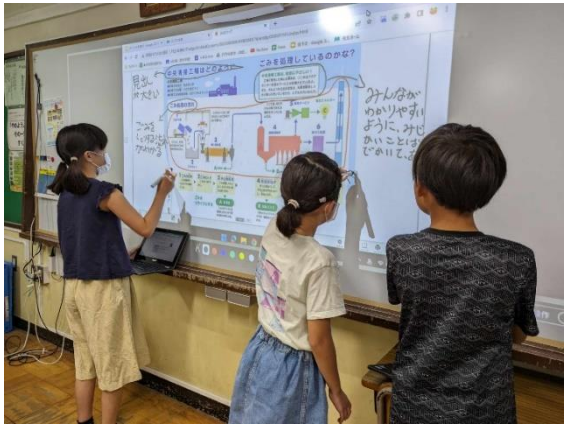
電子黒板機能付きプロジェクタ　市内全教室導入へ

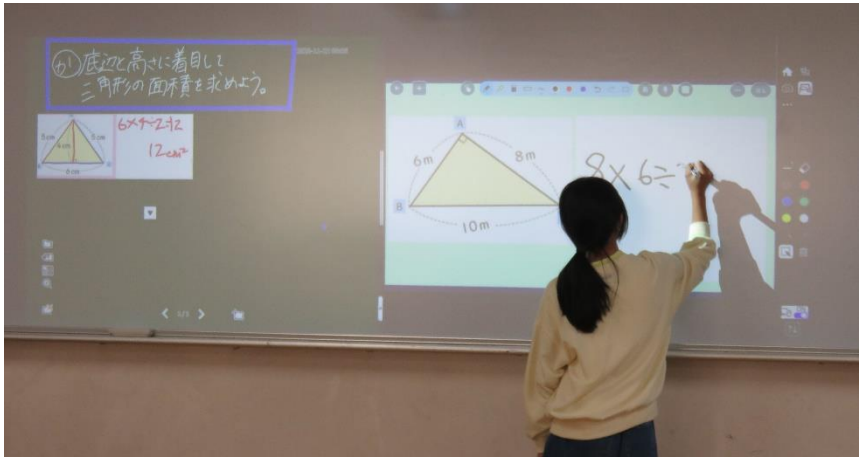
電子黒板機能付きプロジェクタと1人1台端末を連動することで、以下のような効果が得られる。
①60inch型モニター2画面分の大画面により、児童生徒の考えをもとにした授業デザインの変革へ
②電子ペン活用により手書き内容もデジタル化へ、保存された過去の板書を参照し、単元の学びを深化
③デジタル教科書との親和性も高く、学習者用デジタル教科書の活用率も向上、個別最適な学びの推進
～主体的・対話的で深い学びの実現のためのマストアイテムへ化～



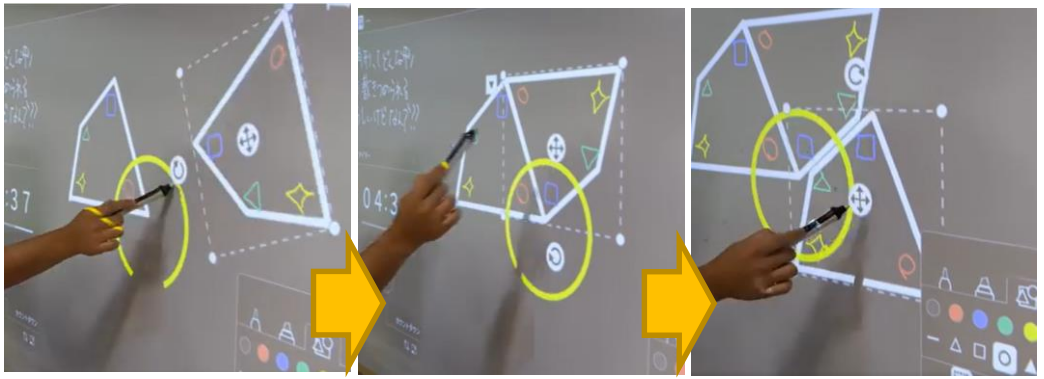
大画面と視線の移動が少なく学習に集中


児童生徒の意見の共有　話合いの活性化


電子ペンの活用



2画面分割提示、キャプチャー、保存、読み出し機能


書く、描く、図形の複製、回転、移動、拡大・縮小も自在に
電子黒板上での操作により分かりやすい説明が可能に

平成２８年度　文部科学省委託事業

チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業

校務分掌に関わる業務　　授業準備・教材研究　　複雑化・多様化する課題

生徒指導上の課題　　**勤務時間外での在校時間の増加**　　部活動

戸田市チーム学校運営委員会

委員：教育委員会関係課事務局、学校管理職

社会に開かれた教育課程の実施
カリキュラム・マネジメントによる
教育活動の充実

教職員が子供と向き合うための
時間の確保

可視化WG

調査照会文書等の件数、照会元、内容等を可視化

可視化による文書、出張数（移動時間含む）等の減少

・学校への送付文書の精選
・学校の文書提出方法の簡易化
・Web会議による集合研修の改善（出張数を減少）

共有化WG

校務に係る様々な資料等の文書や動画による共有化

共有化による負担感の軽減や教育活動の充実

・校務システム機能の改善
・ICTを活用した指導案等の教材の共有化

効率化WG

校務の見直しを進め、学校運営を効率化

民間企業の視点による業務の効率化及び教員の意識改革

・緊急・重要度の基準の明確化による組織的な業務見直し
・モバイルワークの可能性検討
・部活動指導の在り方の検討

時間外在校等時間の縮減に向けた取組の3ステージ

1　市教育委員会主導による意識改革（80h超の解消）

○戸田市チーム学校運営委員会「3K（可視化、共有化、効率化）」の取組
○民間企業の社員を3ヶ月間、学校へ派遣
○学習指導要領の趣旨の実現と働き方改革の取組を車の両輪に
○学校における働き方改革に係る緊急提言（H29.8）の積極的な取組
○戸田市部活動の在り方に関するプロジェクト（ガイドラインの作成）
→100h超が目立っていたが、学校の自走もはじまり80h超が大幅に減少

2　校長会ピアレビューと学校の創意工夫（市内全校への横展開）

○学校行事の教育効果の再考など
→学校間格差が大幅に減少するとともに、80h超がさらに減少

3　個に応じた教職員への支援

○80h時間超の教職員を中心に管理職による面談を強化
○本人及び管理職に対して教育委員会事務局職員による面談

○小学校は80h超は0で、45h超が各校数名 → 県内でトップクラス
○中学校は80h超が全体で数名、45h超が各校数名 → 県内でトップクラス
●いずれも、大会等の役員、全国大会出場の顧問など市外等の要素による
●教頭、主幹教諭、初任者など特定の職種への支援

教員研修の高度化に資するモデル開発事業

R5 文部科学省委託事業

事業のねらい

教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律の改正により、新たな教員研修制度が開始される中、研修の高度化に向けた取組を推進するため、**教育委員会や大学等の多様な主体の協働によるモデルを開発し、その成果を広く普及**することで、全国的な研修観の転換・定着を図る。

戸田市の取組

「戸田市SEEPプロジェクト」を支える教員研修のアップデート

子供の学びと教師の学びは「相似形」→教員研修の個別最適化、協働化による「教科教育深化プラン」の推進

主に個別最適な研修　主催研修等の高度化

教科教育（大学連携）

一流の講師を招聘し、授業前～授業後までの授業研究を支援

体育・保健体育
国士舘大学 細越教授

算数・数学
埼玉大学 二宮教授

教育センター研究員

センター研究員による先進地視察やセミナー参加等の支援のほか、各部会に一流の講師を招聘

教師が各教科等の見方・考え方に浸る研修

主に協働的な研修　校内研修の高度化

モデル校による「脱・自前主義」の校内研修

【美谷本小】大学と連携した学級経営力の向上や（一社）アルバ・エデュと連携した話す力の研修

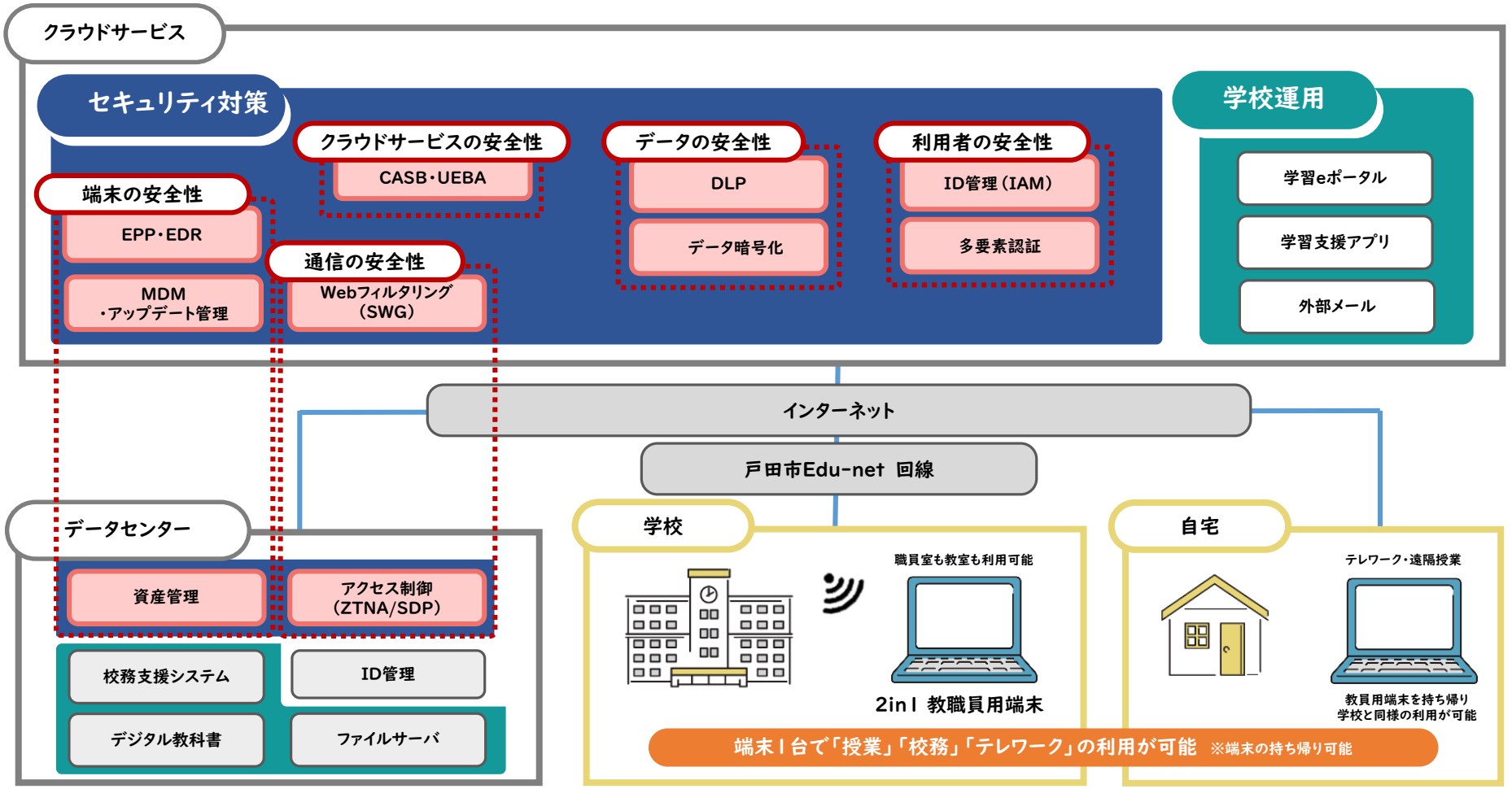
【喜沢小】（株）LITALICOによる継続的な授業観察及びRTIミーティングの伴走支援による研修

【戸田中】福井大学やキャリアリンク（株）と連携した教科教育及びPBLの充実に向けた研修

【笹目中】フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパン（株）と連携したリーダーシップ研修

さらに、協働性を高める研修環境の整備も実施

戸田市版ゼロトラスト概要図



今後は、ハードウェア・ベースでマルチレイヤーなセキュリティーによりPCを保護していく必要性も

→ ハードウェア・ベースの統合型PCプラットフォームの構築

方針2

多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残されない学びの保障について

戸田型オルタナティブ・プランの更なる推進
（令和7年度）　～誰一人取り残されない教育の実現～

◆「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢
◆「リアル」と「デジタル」の両面からの支援の充実、各居場所の有機的な連携の強化

1 多様な学びの場の拡充
不登校を支援する
児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

多様な学びの場の有機的連携

- 埼玉県教育委員会との連携推進　（生徒支援教室「いっぽ」）
- 中学校「きゃんばすルームサポーター」を民間教育サービスに業務委託（新規）
- シェア型オンライン支援「room-K」の継続
- 各学校と教育支援センター「すてっぷ」「西すてっぷ」の有機的連携

2 不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」の取組深化
不登校を科学する
戸田市教育政策シンクタンクとの連携
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える

市長部局など関係機関との連携

- 不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」による効果検証
- 「ぱれっとルーム」「きゃんばすルーム」訪問を通して指導・助言
- 「教育総合データベース」を活用した、不登校や不登校傾向のある児童生徒の早期発見・早期対応
- 「WEBQU」の小・中学校全校実施（新規）
- 多様な学びの場の利用者数の推移調査・分析

3 社会に開かれたネットワークの構築（教育相談体制を拡充）
不登校を理解する
地域や保護者の理解を深め、協働の機運醸成を図る

委託・連携事業等との関係強化

- 「第4回戸田市不登校について考える会」の実施
- 教育相談体制の充実（全小・中学校配置スクールカウンセラーによる相談の他、教育センター心理カウンセラーによる相談の充実）
- 民間団体との連携によるオンラインを活用した支援体制の強化
- 「不登校児童生徒支援リーフレット」の作成と配布
- 広報誌等を活用して、広く市民に取組を紹介

多様な学びの場の選択肢

小学校

SC・SSW・
スクールサポーター
と連携

ぱれっとルーム

自宅

オンラインの
授業参加も

中学校

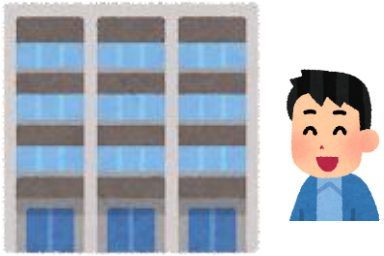
SC・SSW・
スクールサポーター
と連携

さわやか相談室

中学校

きゃんばすルーム

埼玉県立
戸田翔陽高校内



生徒支援教室
いっぽ

メタバース

（認定NPO法人カタリバ）
room-K

戸田市立教育センター
「すてっぷ」

西部福祉センター
「西すてっぷ」

教育支援センター

親子健やか室、こども家庭相談センター等と連携

インクルーシブ教育システムの実現に向けた産官学連携

課題：一部のベテラン教師の2K（経験・勘）により強くリードされる

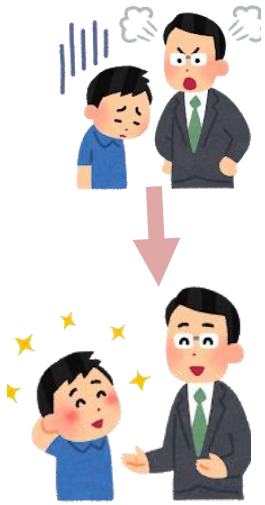
教育の原点である特別支援教育こそ、新しい2K（科学・根拠）の導入を

「特別でない、特別支援教育」の実現
ー多様なニーズへの支援が当たり前である教育へー

戸田市特別支援教育推進計画より

○（株）　LITALICO
- 特別支援教育アドバイザーを委嘱し、学校への指導助言の実施
- 保育所等訪問支援の実施
- 教師によるペアレントトレーニングの学校導入
- 学校版「個別の指導計画」作成システム導入の共同研究

▶ まなびプランの開発



○一般社団法人　UNIVA
- スクールワイドPBS（Positive Behavior Support）に関する研究
- RTI（Response To Intervention）に関する研究

○獨協医科大学
- 発達障害専門医による医療相談

○東京学芸大学
- 難聴言語通級指導教室入級支援委員診断委員への指導

○ 国立特別支援教育総合研究所・（株）学研教育みらい
- 多層指導モデルMIMの導入、ビジョンアセスメントWAVESの導入

戸田市
特別支援教育推進計画

令 和 ４ 年 ３ 月
戸田市教育委員会

はじめに

平成19年4月、障害のある全ての幼児児童生徒の教育の一層の充実を図るため、特別支援教育が法的に位置付けられた改正学校教育法が施行されました。特別支援教育は、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」とされ、発達障害も含めて、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されることが示されました。

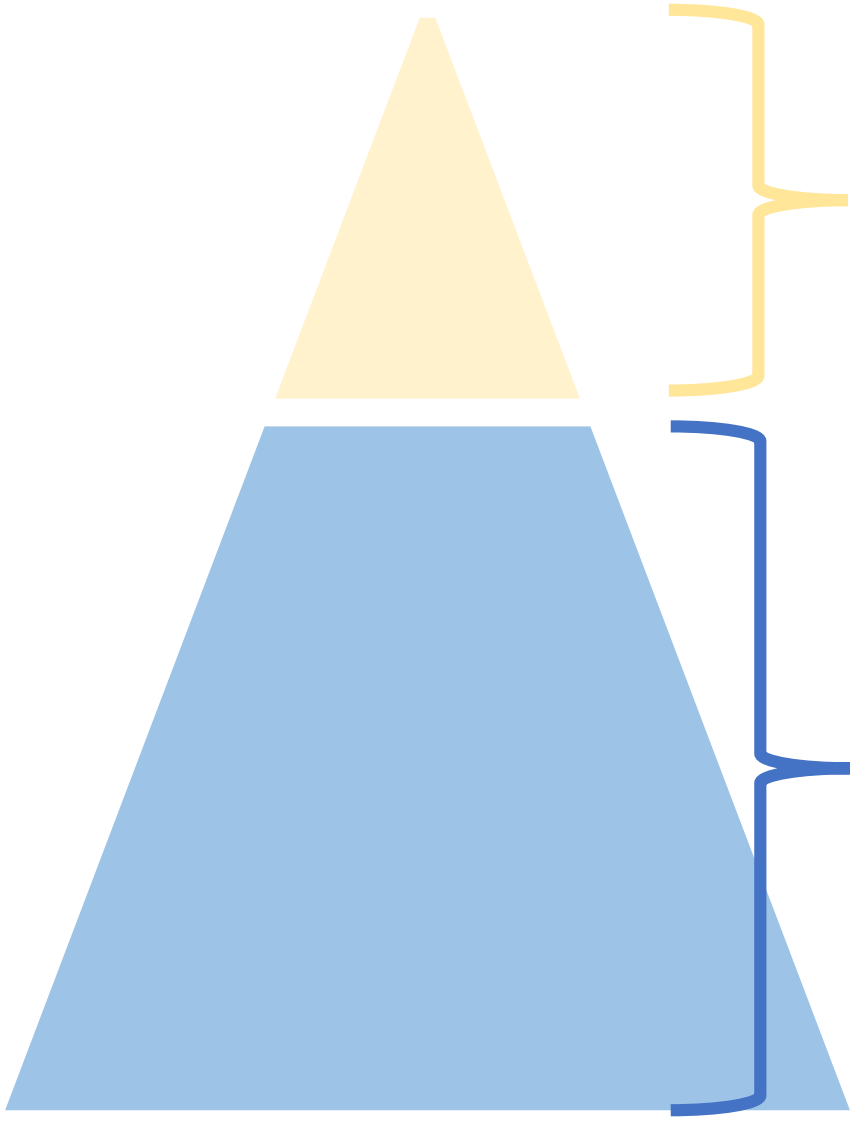
こうした中で、戸田市教育委員会では、「特別支援教育は教育の原点である」という信念のもと、第4次戸田市教育振興計画に「多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障」を方針として掲げています。多様なニーズに丁寧に対応し、きめ細やかな支援を行うことで、障害の有無に関わらず全ての児童生徒が共に成長していく姿の実現を目指します。

今回、全ての学校における特別支援教育を推進するために「戸田市特別支援教育推進計画」を策定しました。本計画を戸田市の特別支援教育の教育環境整備の基盤とし、その推進に寄与できるよう、あわせて、「特別支援教育」という言葉を使う必要がなくなるくらい、「多様なニーズに応じた支援が当たり前の教育」に向け、計画を推進してまいります。

令和4年3月

戸田市教育委員会

インクルーシブ教育システムの構築に向けた施策



個別的な支援が必要な児童生徒への支援

- 学習指導要領に記載の配慮事項の活用
- 専門性のある人材の活用
- 福祉機関との連携
- 多様な学びの場の整備
- 支援籍学習の推進
- アセスメントに基づく「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成

全ての児童生徒への支援

- 応用行動分析に基づくアプローチ
- 学級雰囲気チェックリストの作成
- 「子育て学習会」（ペアレントトレーニング）の実施
- スクールワイドPBSの導入
- RTIミーティングの実施
- 効果的な教材の活用

方針３

地域・家庭・産官学民などの
多様な主体による学びの提供について

市民大学講座における提供方法の発展

取組

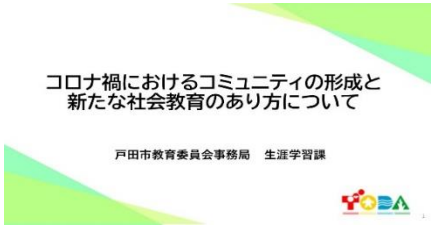
ICTを活用した学習機会の拡充

対面型講義

＋

オンデマンド講義
（公式YouTubeで限定公開）

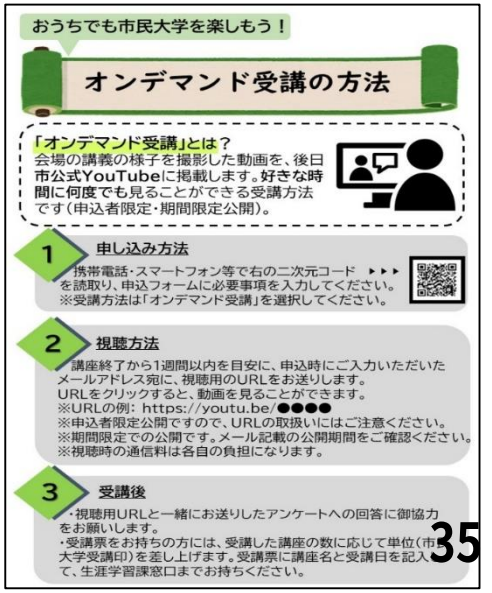
戸田市民大学アーカイブズ開設



公民館Wi-Fi環境整備

各館のフリースペース、
いこいの室は常設

施設名	利用できる貸室	移動式
美笹公民館	講習室・大会議室	1台
下戸田公民館	大会議室・中会議室・小会議室、第1音楽室	2台
新曽公民館	ホール、講習会室・第1会議室	1台



市民大学講座における提供内容の発展

取組

市民ニーズや地域課題を反映した講座開催

大学連携講座

青山学院大学、埼玉大学等と連携した講座を実施
各大学の最先端の研究成果に触れることができる講座

人権講演会

社会における多様性の理解、豊かな人権感覚の醸成を図るための講座

現代課題講座

幅広い視点で、地域や社会全体の課題を学ぶことを通して、それらを自分事として感じられるような講座を開催（情報リテラシー教育、防災や環境問題等）

市民企画講座

市民の「学びたい」「伝えたい」をカタチにする企画講座を実施

介護と看取り・
やさしい日本語
産後ケア・乳がん・
SDGs

とだ学

地域資源を見学し、その魅力を知り、地域への理解を深め、郷土愛を醸成することを目的に実施（R4戸田東小・中学校見学、R5市内特別養護老人ホーム、R6戸田公園ボートコースを見学）

子育て講演会

子育て世代の悩み解消、家庭教育に必要な視点を身につけることを目的に実施

水辺環境エコツアー

（彩湖周辺野鳥観察カヌー編）（彩湖体験ツアー@貯水池機場）

おはなしボランティア養成講座

（図書館事業）

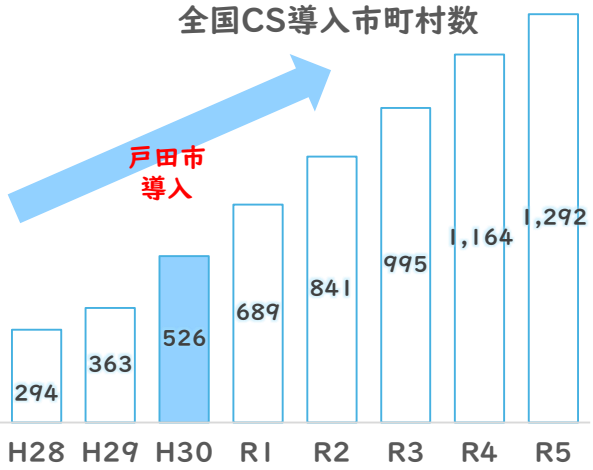
公民館講座

趣味や生活に役立つ講座など多様な市民ニーズやライフステージに応じた学びの場の提供と各種サークル活動を支援

設置から変遷 ～学校運営協議会の設置、熟議テーマの変遷～

○ 平成30年度、戸田市の全ての小中学校*が「コミュニティ・スクール」に ▶ 令和7年度で8年目

■ 自治体の中では比較的早い段階で設置
■ モデル校から導入ではなく、一斉に導入



文科省及び総務省のホームページ掲載データをもとに作成 ▸

委員の構成

- 町内自治会50名
- PTA・保護者45名
- 地域機関18名
- 学校応援団13名
- 児童福祉9名
- 近隣学校9名
- 民間5名
- 子供会3名
- その他3名 ※降順

○熟議では以下のようなテーマが取り扱われており、次第に変わってきている。

- **導入当初は学校と地域の関係構築**（学校の基本方針や教育目標の共有）**等が中心**
  - 「夢あふれ絆深める○○小、子供も大人も元気な学校」を目指すには
  - ○○小の子供にはどんな力が必要か？

- **最近では教育課題の具体的解決等のテーマが増加**
  - 「子どもの安全を守るために地域でできること」
  - 「3分類から考える働き方改革の推進」
  - 「新しい学び・授業観」
  - 「『AI時代に必要な資質・能力』を育成するために」
  - 「学校経営方針を軸とした保護者・地域との信頼関係の構築」 など

R5年3月に戸田市内で発生した不審者の侵入事件を受け、全ての学校運営協議会で議題とした（校長会として決定）

R5年8月の中教審の緊急提言を受け、積極的に議題化するよう各学校運営協議会に依頼

○ 設置から8年経過し、熟議の内容について、一般的なものから、各学校の課題等の実情に応じて様々なテーマが取り扱われるようになった

具体の取組 ～学校における働き方改革の更なる推進に向けて～

- 学校運営協議会は学校と地域の課題解決のプラットフォームとして重要であると捉え、様々な議題を取り扱ってきた（既出のスライド参照）
- 地域の方の理解や協力を得ながら学校における働き方改革を一層推進するため、学校運営協議会に着目し、熟議の推進に向けて令和5年度から以下に取り組んできた

【取組一覧】

① 学校運営協議会委員・管理職等を対象とした全体研修会
@R5.11.9実施
学校運営協議会での議題化に向けたキックオフ

② 「学校・教師が担う業務に係る3分類」に係る
熟議パッケージの作成と熟議の実施
トライアルから得た知見の共有と熟議の実施

③ 学校運営協議会の充実に向けた仕掛け
～「学校は見られれば見られるほど美しくなる」～
新たなチャレンジ

願い
- 学校の働き方改革は、地域の子供のよりよい成長のためであることを共有したい
- 自分事として意見交換し、（できれば）アクションプランに繋げてもらいたい

関係を壊してしまわないように、必ずしもアクションプランに繋げることを目標にしない。まずは話し合うところから

部活動支援事業と地域移行への取組

部活動支援

◎顧問に代わる人材を配置
〇会計年度任用職員　〇単独指導可

R6 NEW

平日　休日

部活動指導員（単独指導可）

連携

部活動支援

◎指導経験のない顧問へのサポート
〇市教委が民間委託、支援員を派遣

部活動サポート（顧問の支援）

平日　休日

サポート

部活動顧問

サポート

部活動ボランティア（顧問の支援）

平日　休日

◎指導経験のない顧問へのサポート
〇学校が推薦、市教委が委嘱
〇文化部も推薦可

部活動支援

民間委託（単独指導可）

R4～7 実証研究

休日

◎顧問に代わる人材を配置
〇市教委が民間と委託、指導者を派遣
〇単独指導可

地域移行

検討

部活動の地域移行・地域連携に係る検討委員会

令和10年度を目安に、休日の運動部活動を可能な限り地域に移行する

方針4

個別最適な学びの実現に向けた EBPMの推進について

教育総合データベースに基づく早期発見・早期支援

○教育委員会及び市長部局に分散している子供に関わるデータについて、教育分野を軸にした「教育総合データベース」を整備。分野を越えて連携させることを通じて、教師による「見守り」・「見届け」を補完・補強し、子供のSOSの早期発見・支援につなげる。

▶ デジタル庁、こども家庭庁の実証事業として研究を進め、令和5年12月より市内全校に導入。

市内喜沢小学校でのデータベースを活用したサポートミーティングの様子

▶ 校内でばらばらになっている児童生徒のデータが教師の手元で一覧で表示可能に。
ケース会議や各種会議でもデータベースをもとにした指導支援の検討が可能に。

教育データの利活用に関するガイドライン

令和４年 12 月

埼玉県戸田市

URLはこちら

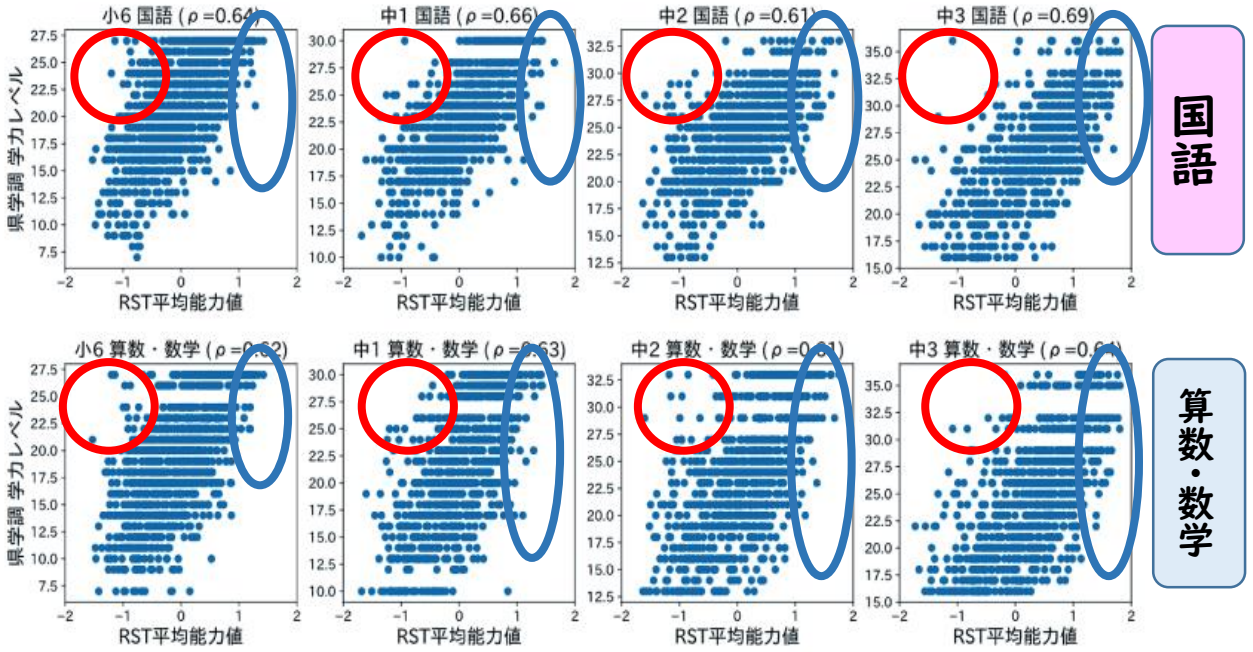
目次

Ⅰ．はじめに 3
Ⅱ．教育データ利活用の基本的な方針 6
１．教育は技術に優先する 7
２．差別的取扱いの禁止等 7
３．内心の自由の保障等 7
４．教育の機会均等と水準の維持向上 8
Ⅲ．教育データ利活用に際しての具体的措置 9
１．データガバナンス体制の確立 9
（１）総括管理主体 10
（２）保有・管理主体 12
（３）分析主体 13
（４）活用主体 14
２．安全管理措置の実施 14
（１）組織的安全管理措置 15
（２）人的安全管理措置 15
（３）物理的安全管理措置 16
（４）技術的安全管理措置 16
３．関係者に対する丁寧な説明等 17
（１）利用目的の丁寧な説明 17
（２）学校現場におけるデータ利活用の文化醸成 18
（３）幅広い市民・世論の理解の醸成 20
（４）開示請求等があった場合の対応 22
４．データベースの構築・運用の在り方 24
（１）想定されるユースケース 24
（２）データベースに実装すべき機能 29
（３）データベースに搭載するデータの対象年度 30
（４）データベースに搭載するデータの保存期間 31
（５）卒業等に際してのデータの取り扱い 33
（６）データベースの活用 33
Ⅳ．今後の方向性 36
１．教育データ利活用の方向性 36
２．施策の充実の方向性 38
Ⅴ．おわりに 41
参　考　資　料 42

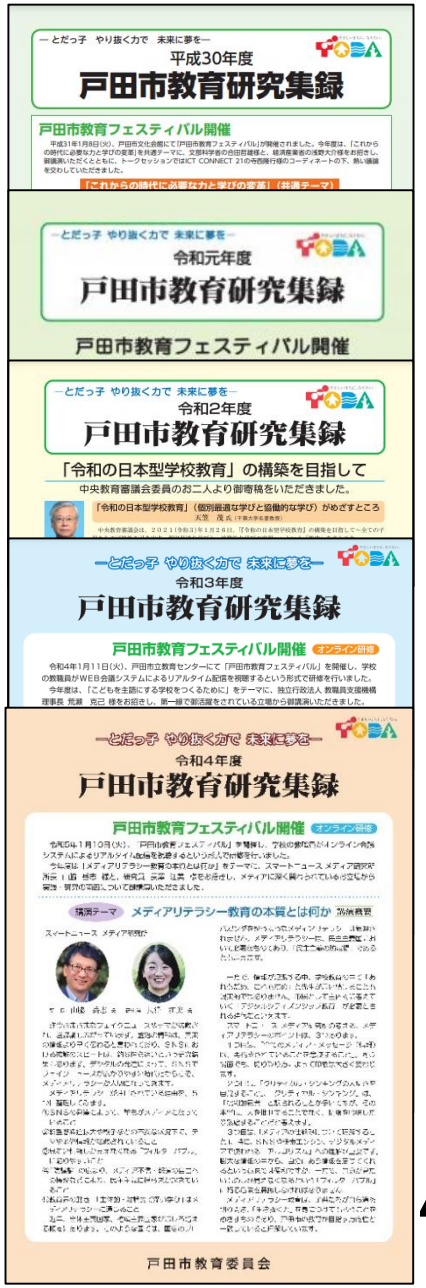
リーディングスキルの育成・研究について

（1）リーディングスキルテスト結果と埼玉県学調の相関分析

下図は、本年度のＲＳＴ全受検者について、上記４タイプの読解能力値の平均値（横軸）と、令和元年度の埼玉県学調（国語および算数・数学）における３６段階の学力レベル（縦軸）との関係を図示したものです。図中のρは相関係数と呼ばれる統計値で、－１から１の範囲の値を取り、受検者の２つの特性（読解能力値と学力レベル）の関係が直線的である度合いを表します。全ての学年及び国語と算数・数学の両教科で相関係数は０．６１～０．６９の範囲であり、ＲＳと学力レベルには明らかな正の相関があることが分かります。



○は、今後の学習でのつまずきが心配される児童生徒
○は、RSの能力値が高い生徒は中3後期（入試時期）の一般的なテストの伸びも高い。



第４次計画のモニタリング指標の進捗状況

資料Ⅰ－３

モニタリング指標名	該当所属	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
■主に方針１（子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現）に関係するもの					
全国学力・学習状況調査における平均正答率	教育政策室	**小学校６年生** 国語66%（全国：64.7%） 算数71%（全国：70.2%） **中学校３年生** 国語65%（全国：64.6%） 数学58%（全国：57.2%）	**小学校６年生** 国語68%（全国：65.6%） 算数65%（全国：63.2%） 理科64%（全国：63.3%） **中学校３年生** 国語71%（全国：69.0%） 数学55%（全国：51.4%） 理科50%（全国：49.3%）	**小学校６年生** 国語70%（全国：67.2%） 算数64%（全国：62.5%） **中学校３年生** 国語72%（全国：69.8%） 数学55%（全国：51.0%）	**小学校６年生** 国語67%（全国：67.7%） 算数63%（全国：63.4%） **中学校３年生** 国語61%（全国：58.1%） 数学55%（全国：52.5%）
埼玉県学力・学習状況調査において学力を伸ばした児童生徒の割合	教育政策室	**小学校６年生** 国語70%以上80%未満 算数70%以上80%未満 **中学校３年生** 国語70%以上80%未満 数学70%以上80%未満 英語80%以上	**小学校６年生** 国語70%以上80%未満 算数60%以上70%未満 **中学校３年生** 国語60%以上70%未満 数学60%以上70%未満 英語80%以上	**小学校６年生** 国語60%以上70%未満 算数50%以上60%未満 **中学校３年生** 国語50%以上60%未満 数学50%以上60%未満 英語60%以上70%未満	**小学校６年生** 国語60%以上70%未満 算数60%以上70%未満 **中学校３年生** 国語70%以上80%未満 数学50%以上60%未満 英語70%以上80%未満
授業の内容がわかる児童生徒の割合	教育政策室	**小学校（４教科）**：84.8% **中学校（５教科）**：77.6%	**小学校（４教科）**：83.2% **中学校（５教科）**：76.3%	**小学校（４教科）**：84.8% **中学校（５教科）**：74.6%	**小学校（４教科）**：83.6% **中学校（５教科）**：75.6%
中学校卒業時の英検３級以上取得率	教育政策室	56.4%	58.5%	60.90%	58.40%
教職員の在校等時間の状況	学務課	**小学校**：約36時間／月 **中学校**：約56時間／月	**小学校**：約29時間／月 **中学校**：約39時間／月	**小学校**：約25時間／月 **中学校**：約37時間／月	**小学校**：約20時間／月 **中学校**：約39時間／月
授業支援システムの活用ログ	教育総務課	9,870名	9,946名	10,076名	9,940名
地場食材の活用や食育の取組状況	学校給食課	じゃがいも200kg はちみつ9kg	じゃがいも227kg たまねぎ173kg はちみつ6.3kg	はちみつ4.2kg	はちみつ3.6kg
■主に方針２（多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障）に関係するもの					
障害福祉に係る相談窓口の相談件数	障害福祉課	35,535件	33,438件	43,395件	42,149件
不登校児童生徒の教育機会の確保状況	教育政策室	すてっぷ　39名 その他　12名	すてっぷ　62名 いっぽ　10名 room-K　7名 ぱれっと　101名 その他　17名	すてっぷ　54名 西すてっぷ　6名 いっぽ　5名 room-K　27名 ぱれっと　94名 その他　19名	すてっぷ　43名 西すてっぷ　11名 いっぽ　6名 room-K　25名 ぱれっとルーム　84名 きゃんばすルーム　31名 その他　25名
民間事業者と連携した学習機会の提供回数 （学校内を会場とするもの）	教育政策室	**小学校** 放課後に、３～６年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数1,355名） **中学校** 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季125名、放課後90名）	**小学校** 放課後に、３～６年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数1,055名） **中学校** 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季237名、放課後114名）	**小学校** 放課後に、３～６年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数 1055名） **中学校** 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季207名、放課後104名）	**小学校** 放課後に、３～６年生を対象に学習機会を提供（参加申込者数 783名） **中学校** 夏季休業中と放課後に学習機会を提供（参加申込者数は夏季491名、放課後204名）
民間事業者と連携した学習機会の提供回数 （学校外を会場とするもの）	教育政策室	中学校３年生を対象に英検３級対策講座を開催した（参加申込者数154名）	中学校３年生を対象に英検３級対策講座を開催した（参加申込者数118名）	中学校３年生を対象に英検３級対策講座を開催した（参加申込者数86名）	中学校３年生を対象に英検３級対策講座を開催した（参加申込者数97名）
障害児相談支援利用者数	障害福祉課	519件	612件	737件	841件
１歳８か月健診、３歳６か月健診の平均受診率	親子すこやか室	93.5% ＊１歳８か月健診　94.4% ＊３歳６か月健診　92.5%	97.8% ＊１歳８か月健診　97.8% ＊３歳６か月健診　97.9%	97.3% ＊１歳８か月健診　98.4% ＊３歳６か月健診　96.1%	96.7% ＊１歳８か月健診　97.0% ＊３歳６か月健診　96.3%
子育て支援センター利用者数	保育幼稚園課	5,111件	6,484件	8,408件	6,521件
こども家庭相談の状況	親子すこやか室	13,797件	14,820件	14,337件	11,446件
■主に方針３（地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供）に関係するもの					
生涯学習活動を行っている市民の割合	生涯学習課	－	－	24.0%	－
市民大学、公民館講座受講者数	生涯学習課	3,143名	3,561名	4,262名	5,643名
国内外姉妹、友好都市との交流件数	協働推進課	6件	8件	13件	14件
プロ選手・プロ芸術家と触れあえるイベント数	文化スポーツ課	2件	4件	3件	8件
青少年の居場所の実施施設数	児童青少年課	5施設	5施設	5施設	7施設
■主に方針４（個別最適な学びの実現に向けたＥＢＰＭの推進）に関係するもの					
外部研究機関との共同研究の実施状況	教育政策室	令和3年度戸田市教育研究集録において、1件（3名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。	令和4年度戸田市教育研究集録において、3件（7名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。	令和5年度戸田市教育研究集録において、3件（9名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。	令和6年度戸田市教育研究集録において、3件（7名）の外部研究機関と連携して行った学術的研究の成果を掲載。

第５次計画策定に向けた論点一覧

資料２

項目	第４次戸田市教育振興計画	考えられる論点
これからの社会の展望と教育の方向性	グローバル化や情報化が進み、社会が加速度的に変化していくSociety5.0の時代を生きる子供たちに必要な力を育めるよう、日本型教育のよさも踏まえながら、先進的な取組を推進します。そして、学校・家庭・地域が一体となって、それぞれの役割のもと協力しあい、子供たちを見守り、育てていくまちを目指します。	①この５年間の社会や教育における変化として例えば、 ・コロナ禍を契機としたリモートワークやオンライン学習などへの社会全体のデジタルシフト（学校教育ではGIGAスクール構想が浸透し１人１台端末の効果的な活用が課題） ・生成AIの登場をはじめとする先端技術の急速な発展、拡大 ・児童生徒の多様性を尊重し、支援する必要性の高まり（不登校、発達上の特性や健康問題、外国籍や家庭に配慮を要する子供の増加などによるもの） ・「ウェルビーイング」といった言葉などの普及に見られる経済的豊かさだけでなく心身の健康や幸福度を追及する傾向の拡大 ・突然の災害やパンデミックなどによる不確実性の増大や環境問題の深刻化 などがあげられるが、第５次計画では今後の社会の展望をどのように整理すべきか。 ②「日本型教育のよさも踏まえながら…」以降の記述は、戸田市における教育の方向性を示したものであるが、この項目では、一般的に今後の５年間で教育に求められていること（例えば、県の教育振興基本計画にある、「一人一人が豊かで幸せな人生を送る」「持続的に発展する社会の創り手となる」といったもの）を記載し、戸田市における教育の方向性については、本市の教育理念の基本的な考え方を説明（下段の論点①参照）する際に記載してはどうか。 ③「日本型教育」という表現について国や県の教育振興計画にあわせて「日本型学校教育」と修正すべきではないか。
基本理念	生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田	①基本理念とキャッチコピーの役割が重複しており、それぞれが目指す方向性も異なるように見えるため、現行の基本理念やキャッチフレーズを継承しつつ「教育理念」として統合し、一文で伝わりやすくしてはどうか。（産官学民との連携や先駆的な教育改革など、本市における特徴的な教育政策を分かりやすく表現することを想定） ②「生涯学習の中に包摂した一部分として学校教育がある」という捉え方に基づき、学校教育（とだっ子）に限定しない表現としてはどうか。（「生涯学習推進ビジョン」との連関を強化する）
キャッチフレーズ	とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を	
キャッチフレーズについて	とだっ子が、学力などの「認知能力」だけでなく、好奇心や自制心、やり抜く力などの「非認知的（社会情緒的）能力」を身に付け、夢や希望を持ち、持続可能な社会の実現に向け、エージェンシーを備えて２１世紀を主体的に生き抜いてほしいとの思いから定めています。やり抜く力は、自ら設定したゴールに向けて、努力し続けることができる力のことで、このような「非認知的（社会情緒的）能力」は、人生の成功に非常に重要であることが諸外国の研究で示されています。	①教育理念として統合した場合、その基本的な考え方（何を目指し、何を大切にし、方針や主な施策を定めるのか）を説明する項目としてはどうか。

項目	第４次戸田市教育振興計画	考えられる論点
＜方針１＞ 名称及び説明	方針１．子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現 教師の指導力向上や、よりよい教育環境の整備により、日々の授業における新たな学びを推進し、子供たち一人ひとりが複雑で変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けることを目指します。	①社会の変化やこれまでの本市の現状、課題を踏まえて、第４次計画で示した学校教育が目指す方針の変更は必要ないか。
＜方針１＞ 主な施策	主な施策 ・授業改善による質の高い授業の実現（主体的・対話的で深い学びやPBL型の学びの実現、脱正解主義・脱自前主義・脱予定調和の学びの推進） ・教師の指導力向上や教科等横断的な視点によるカリキュラム・マネジメントの推進 ・学校のチームとしての組織力向上と働き方改革の推進 ・ICT 環境の整備と、その活用によるハイブリッド型学習等への支援や事務等のデジタル化の推進 ・学校施設や設備の整備 ・食育の推進	①次期学習指導要領の改訂やGIGAスクール構想第２期が始まる中で新たに追加する施策はどのようなものが考えられるか。 ②産官学との連携によるSTEAMLabの設置や市内全中学校へのレーザー加工機の導入など、本市では最新テクノロジーを積極的に学校の教育活動に取り入れているが、これらに係る施策を盛り込む必要がないか。 ③これまで壁のあった就学前の幼児教育と学校教育の円滑な接続を図り、架け橋期の教育の充実を盛り込む必要がないか。
＜方針１＞ 主に関係するモニタリング指標	・全国学力・学習状況調査における平均正答率 ・埼玉県学力・学習状況調査において学力を伸ばした児童生徒の割合 ・授業の内容がわかる児童生徒の割合 ・中学校卒業時の英検３級以上取得率 ・教職員の在校等時間の状況 ・授業支援システムの活用ログ ・地場食材の活用や食育の取組状況	①「学校施設や設備の整備」に係る指標を追加してはどうか。 ②「地場食材の活用」については、市内に農家がほぼいない状況であり、令和５年度以降、給食に提供できる市内産の食材は１品（はちみつ）のみとなっているため指標から削除してはどうか。（主な施策において引き続き「食育の推進」を図る）

項目	第４次戸田市教育振興計画	考えられる論点
＜方針２＞ 名称及び説明	方針２．多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障 多様なニーズに丁寧に対応し、きめ細やかな支援を行うことで、子供たちの誰もが未来に夢や希望を持って学びに向かい、就学前を含めた教育をとおして共に成長していく姿の実現を目指します。	①共生社会の実現に向けて、多様性の尊重に加えて障害の有無や国籍等に関わらず共に学ぶことや、共に活動することを要素として方針の中に盛り込む必要がないか。 ②対象を限定せず、全ての学習者の多様なニーズに応えていくことを目的に、子供や就学前といった記載の修正が必要ではないか。
＜方針２＞ 主な施策	主な施策 ・教育相談体制の充実（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教育アドバイザー、教育相談コーディネーターの配置等） ・障害のある児童生徒及びその保護者への支援 （特別支援教育コーディネーター等の支援体制の構築） ・発達障害の早期発見、早期支援 ・不登校児童生徒への支援 ・放課後の学習支援や日本語指導の推進 ・福祉機関等との連携強化	①インクルーシブ教育の充実や不登校対策としての「戸田型オルタナティブ・プラン」などの取組を行ってきているが、今後も推進していくものとして施策に追加するのはどうか。 ②生涯学習（主に社会教育）における多様なニーズに応えていく施策としてどのようなものを盛り込む必要があるか。
＜方針２＞ 主に関係するモニタリング指標	・障害福祉に係る相談窓口の相談件数 ・不登校児童生徒の教育機会の確保状況 ・民間事業者と連携した学習機会の提供回数 （学校内、学校外を会場とするもの） ・障害児相談支援利用者数 ・１歳８か月検診、３歳６か月検診の平均受診率 ・子育て支援センター利用者数 ・こども家庭相談の状況	①不登校児童生徒の学習保障や障害がある児童生徒への適切な支援についてどのような指標が考えられるか。 （例えば、不登校支援として、多様な学びの場の選択肢を拡充し、児童生徒の多様なニーズに応じた環境を整備する段階から、それぞれの学びの場を充実させることにより、不登校児童生徒数の割合の適切な減少を目指す段階へと移行したことから、指標を「不登校児童生徒の割合」に変更してはどうか。）

項目	第４次戸田市教育振興計画	考えられる論点
＜方針３＞ 名称及び説明	方針３．地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供 スポーツや文化芸術活動を含めた生涯学習を推進し、学びたい人が学べる環境の実現を目指します。また、就学前を含めて切れ目なく地域・家庭が子供たちを見守り育てる取組や、産官学民との連携等により、様々な安全な学びの場を提供します。	①「生涯学習（主に社会教育）」に係る方針であることが分かりやすく伝わるように、名称や説明を変更するとよいのではないか。 ②産官学民連携については、計画の推進に際して各施策を支える基盤となるものであるため、方針４に位置付けるのがよいではないか。 ③具体的な実践活動を推進するものとして、「生涯学習活動を推進」に修正し、「スポーツや文化芸術活動」に対応させてはどうか。
＜方針３＞ 主な施策	主な施策 ・生涯学習活動、リカレント教育の推進 ・コミュニティ・スクール等の地域とともにある学校の推進 ・国内外姉妹、友好都市と連携した、地域理解や地域交流 ・スポーツや文化芸術活動の振興 ・保育園や幼稚園における就学前教育の充実 ・青少年の居場所の提供 ・家庭学習の推進 ・民間の教育力の活用やボランティアとの連携	①あえて並記する必要性も低いため、「生涯学習活動、リカレント教育の推進」の施策から「リカレント教育」の記述を削除してはどうか。 ②「スポーツや文化芸術活動」については、具体的な施策を実効的に推し進めているものであるため、記述を「推進」に修正してはどうか。 ③「保育園や幼稚園における就学前教育の充実」については、方針１の論点で挙げた「架け橋期の教育の充実」を図る施策に含まれるものとして整理するのはどうか。 ④「青少年の居場所」については、現在では１８歳未満のこどもが安心して過ごせる場をまとめて、「こどもの居場所」と総称されていることから修正してはどうか。 ⑤中学校部活動の地域展開に係る施策を追加してはどうか。 ⑥こども基本法の成立や18歳成人を踏まえ、こどもが主体的に社会の形成に参加する取組を盛り込む必要がないか。 ⑦「民間の教育力の活用やボランティアとの連携」は、計画の推進に際して各施策を支える基盤となるものであるため、方針４の主な施策に入れ込むのはどうか。
＜方針３＞ 主に関係するモニタリング指標	・生涯学習活動を行っている市民の割合 ・市民大学、公民館講座受講者数 ・国内外姉妹、友好都市との交流件数 ・プロ選手・プロ芸術家と触れあえるイベント数 ・青少年の居場所の実施施設数	①プロ選手を厳密に捉えると、元オリンピアンなどが除外されてしまう可能性があるため、「トップアスリート」に修正してはどうか。 ②主な施策名の変更（こどもの居場所づくりの推進）をする場合、指標名を変更してはどうか。 ③「こどもの意見表明機会の提供」に係る指標を追加してはどうか。

項目	第４次戸田市教育振興計画	考えられる論点
＜方針４＞ 名称及び説明	方針４．個別最適な学びの実現に向けたＥＢＰＭの推進 外部の研究者と連携して最先端の知のリソースを取り入れながら、データ活用を進めることにより３Ｋ（経験・勘・気合い）から脱却し、「教室を科学する」取組の推進、子供たち一人一人の学習状況等に応じた学びの実現を目指します。	①「個別最適な学びの実現に向けたもの」に限定せず、「計画の推進に際して各施策を支える基盤となるもの」を方針４に位置付けることと整理し、既存の「ＥＢＰＭ」「データ利活用」に加え、新たに「産官学民連携」「教育デジタルトランスフォーメーション（教育ＤＸ）」も含めていくのはどうか。 ②「データ活用」から「データ利活用」にすることで、より戦略的・多面的な意味を含めていくのはどうか。
＜方針４＞ 主な施策	主な施策 ・戸田市教育政策シンクタンクを中心としたＥＢＰＭ推進体制の整備 ・モニタリング指標等に基づく継続的な状況把握 ・教育活動や政策の効果等に関する研究の推進と研究成果の公表 ・個人情報保護やコンプライアンス確保の取組	①ＥＢＰＭ推進体制の整備について、戸田市教育政策シンクタンクだけが担っていると誤解を与えないように、「を中心とした」ではなく、「をはじめとした」という表記に修正してはどうか。 ②「教育デジタルトランスフォーメーション（教育ＤＸ）」に係る最新の施策としてどのような施策の追加が考えられるか。 ③本市が独自に構築して学校で活用が進んでいる「教育総合データベース」を端緒として、データ利活用を推進していくことを施策に追加してはどうか。
＜方針４＞ 主に関係するモニタリング指標	・外部研究機関との共同研究の実施状況	①「教育総合データベース」に係る指標を追加してはどうか。

市民大学講座

報告事項⑤

埼玉大学の研究を共に学ぼう！

Saitama University
埼玉大学

×

戸田市連携講座

第1回 9月9日(火)午後2時～3時30分

人は何故、化粧をするのか？ ―化粧品を「化学」する―

理工学研究科　准教授　藤森 厚裕　氏

保湿化粧品の実体とは何か？美白化粧品の効能とは？日焼け止めとファンデーション中の顔料に共通する効果とは？化粧もちがよくなった理由と未来への課題とは？…身近な化粧品に於ける「化学」についてお話します。

第2回 9月12日(金)午後2時～3時30分

ジャグリングパターンの数理

理工学研究科　助教　高橋 悠樹　氏

ジャグリングとはいわばお手玉のことです。ジャグリングパターンはサイトスワップと呼ばれ、驚くほど豊かな数学的構造を持つことが知られています。今回の講演では、そのサイトスワップの基礎についてお話します。

第3回 9月17日(水)午後2時～3時30分

韓国の文化人と城北洞

人文社会科学研究科　准教授　柳川 陽介　氏

ソウル近郊の城北洞は、様々な文化人に愛され、交流の場として名を馳せました。城北洞に集う文化人の姿から、近代韓国の文学・美術・出版にまつわる逸話や交流の諸相についてお話します。

第4回 9月19日(金)午後2時～3時30分

最近の世界経済情勢について

人文社会科学研究科　教授　浅田 英克　氏

近時の世界経済情勢について、本年１月に発足したアメリカのトランプ政権による関税措置、各地での武力紛争等の地政学的リスクの高まり等の課題について概観するとともに、将来の展望についても考えていきます。

会場：戸田市役所5階大会議室　　対象：市内在住・在勤・在学者

定員：①会場60名　②オンデマンド受講(期間限定、申込者限定公開)

申込方法：申込フォーム(下記URL・二次元コード) または電話　※8月1日申込開始

https://www.city.toda.saitama.jp/ques/questionnaire.php?openid=1073

○受講にあたり、配慮が必要な方はお申し出ください。

問合せ：戸田市民大学事務局(教育委員会　生涯学習課内)

電話　048－441－1800(内線308)　メール　simin-daigaku@city.toda.saitama.jp